

ストックヤード建設工事 設計図

意匠図			構造図			電気設備図			機械設備図		
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-01	表紙・図面リスト	A-15	矩計図(1)	S-01	構造設計特記仕様	E-01	電気設備特記仕様書	M-01	機械設備特記仕様書		
A-02	建築工事特記仕様書(1)	A-16	矩計図(2)	S-02	鉄骨構造標準図(1)	E-02	構内配電線設備図	M-02	管種使用区分表他		
A-03	建築工事特記仕様書(2)	A-17	建具表	S-03	鉄骨構造標準図(2)	E-03	電気設備凡例・照明器具姿図・盤結線図	M-03	器具明細表		
A-04	建築工事特記仕様書(3)	A-18	展開図	S-04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	E-04	電灯設備平面図	M-04	給排水設備平面図		
A-05	建築工事特記仕様書(4)	A-19	雑詳細図(1)	S-05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	E-05	幹線・動力・コンセント設備平面図	M-05	浄化槽図1		
A-06	建築工事特記仕様書(5)	A-20	雑詳細図(2)	S-06	基礎伏図			M-06	浄化槽図2		
A-07	建築工事特記仕様書(6)	A-21	雑詳細図(3)	S-07	基礎リスト・台柱・柱脚リスト・地中梁リスト			M-07	空調機器仕様一覧表		
A-08	建築工事特記仕様書(7)			S-08	1階柱R階梁床伏図			M-08	冷媒配管施工要領図		
A-09	設計概要・仕上表・求積図・天井伏図			S-09	軸組図(1)			M-09	空調設備平面図		
A-10	付近見取図・配置図			S-10	軸組図(2)			M-10	換気設備機器仕様一覧表		
A-10-1	敷地断面図			S-11	軸組図(3)			M-11	換気設備平面図		
A-11	敷地求積図			S-12	鉄骨部材リスト						
A-12	既存建築物概要			S-13	4通り鉄骨架構詳細図						
A-13	平面図・立面図・断面図・屋根伏図										
A-14	平面詳細図										

④ 地盤改良 ⑤ セメント系固化剤を 用いた工法による 改良	⑤ 地盤改良 ⑤ セメント系固化剤を 用いた工法による 改良 ⑦ 高強度コンクリート コンクリート ⑧ 液状化対策 ⑨ 砂利地盤 ⑩ 結合コンクリート ⑪ 床下防護層	⑤ 壁間部の補強 ⑥ 貫通孔の補強 ⑦ 基礎梁主筋の断手 ⑧ 縦筋の補強 ⑨ 梁上階柱脚補強 ⑩ 鋼骨鉄骨コンクリート ⑪ レーミキスト ⑫ セメント ⑬ 骨材 ⑭ 混合材 ⑮ 気乾容積係数 ⑯ 構造用コンクリート ⑰ マスクコンクリート	7 教育工事 ④ 高力ボルト ⑤ 普通ボルト ⑥ 溶接部めっき 高力ボルト ⑦ アンカーボルト ⑧ 溶接材料 ⑨ ターンバックル ⑩ デッキプレート ⑪ スタッド ⑫ 柱埋めムルタル ⑬ 工作間 ⑭ 鉄骨の製作精度 ⑮ 溶接技術者の技能 追加試験 ⑯ 溶接接合 ⑰ 3ALハネル	7 教育工事 ④ 溶接部の試験 ⑤ 結晶化塗装 ⑦ 耐火塗装 ⑩ 耐火材料 ⑫ 耐火精度 ⑬ アンカーボルトの 保持及び埋込み工法 ⑮ 経年劣化試験 ⑯ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分 ⑰ 高力ボルトの 性能 ⑱ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分 ⑲ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分
⑥ 構造用コンクリート ⑦ 高強度コンクリート ⑧ 液状化対策 ⑨ 砂利地盤 ⑩ 結合コンクリート ⑪ 床下防護層	⑥ 構造用コンクリート ⑦ 高強度コンクリート ⑧ 液状化対策 ⑨ 砂利地盤 ⑩ 結合コンクリート ⑪ 床下防護層 ⑫ レーミキスト ⑬ セメント ⑭ 骨材 ⑮ 混合材 ⑯ 気乾容積係数 ⑰ 構造用コンクリート ⑱ マスクコンクリート	⑥ 構造用コンクリート ⑦ 高強度コンクリート ⑧ 液状化対策 ⑨ 砂利地盤 ⑩ 結合コンクリート ⑪ 床下防護層 ⑫ レーミキスト ⑬ セメント ⑭ 骨材 ⑮ 混合材 ⑯ 気乾容積係数 ⑰ 構造用コンクリート ⑱ マスクコンクリート	7 教育工事 ④ 高力ボルト ⑤ 普通ボルト ⑥ 溶接部めっき 高力ボルト ⑦ アンカーボルト ⑧ 溶接材料 ⑨ ターンバックル ⑩ デッキプレート ⑪ スタッド ⑫ 柱埋めムルタル ⑬ 工作間 ⑭ 鉄骨の製作精度 ⑮ 溶接技術者の技能 追加試験 ⑯ 溶接接合 ⑰ 3ALハネル	7 教育工事 ④ 溶接部の試験 ⑤ 結晶化塗装 ⑦ 耐火塗装 ⑩ 耐火材料 ⑫ 耐火精度 ⑬ アンカーボルトの 保持及び埋込み工法 ⑮ 経年劣化試験 ⑯ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分 ⑲ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分
⑫ 鉄筋の種類 ⑬ 鋼筋の定寸及び 長さ ⑭ 鋼筋のふり厚さ及び 間隔 ⑮ 特殊な鉄筋断手	⑫ 鉄筋の種類 ⑬ 鋼筋の定寸及び 長さ ⑭ 鋼筋のふり厚さ及び 間隔 ⑮ 特殊な鉄筋断手	⑫ 鉄筋の種類 ⑬ 鋼筋の定寸及び 長さ ⑭ 鋼筋のふり厚さ及び 間隔 ⑮ 特殊な鉄筋断手	7 教育工事 ④ 高力ボルト ⑤ 普通ボルト ⑥ 溶接部めっき 高力ボルト ⑦ アンカーボルト ⑧ 溶接材料 ⑨ ターンバックル ⑩ デッキプレート ⑪ スタッド ⑫ 柱埋めムルタル ⑬ 工作間 ⑭ 鉄骨の製作精度 ⑮ 溶接技術者の技能 追加試験 ⑯ 溶接接合 ⑰ 3ALハネル	7 教育工事 ④ 溶接部の試験 ⑤ 結晶化塗装 ⑦ 耐火塗装 ⑩ 耐火材料 ⑫ 耐火精度 ⑬ アンカーボルトの 保持及び埋込み工法 ⑮ 経年劣化試験 ⑯ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分 ⑲ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分
⑯ 鉄骨製作工場 ⑰ 溶接技術者の技能 追加試験 ⑱ 溶接接合 ⑲ 3ALハネル	⑯ 鉄骨製作工場 ⑰ 溶接技術者の技能 追加試験 ⑱ 溶接接合 ⑲ 3ALハネル	⑯ 鉄骨製作工場 ⑰ 溶接技術者の技能 追加試験 ⑱ 溶接接合 ⑲ 3ALハネル	7 教育工事 ④ 高力ボルト ⑤ 普通ボルト ⑥ 溶接部めっき 高力ボルト ⑦ アンカーボルト ⑧ 溶接材料 ⑨ ターンバックル ⑩ デッキプレート ⑪ スタッド ⑫ 柱埋めムルタル ⑬ 工作間 ⑭ 鉄骨の製作精度 ⑮ 溶接技術者の技能 追加試験 ⑯ 溶接接合 ⑰ 3ALハネル	7 教育工事 ④ 溶接部の試験 ⑤ 結晶化塗装 ⑦ 耐火塗装 ⑩ 耐火材料 ⑫ 耐火精度 ⑬ アンカーボルトの 保持及び埋込み工法 ⑮ 経年劣化試験 ⑯ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分 ⑲ 溶接部のめっき(構造 部材)主要な部分

Table with multiple columns and rows detailing construction specifications for waterproofing and drainage. Includes sections for '防水工事' (Waterproofing), '排水工事' (Drainage), and '舗装工事' (Paving). Each section contains detailed tables for material types, dimensions, and application methods.

12 木工工事 (標準)	⑧ 床張り用合板等	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外	(12.2.1)	⑭ 鉄鋼の重ねのけき	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">[14.2.2] [表14.2]</th> </tr> <tr> <th>表面処理方法</th> <th>種 別</th> <th>施工箇所 (手すり、タラップ以外)</th> </tr> <tr> <td>溶剤塗膜のつき</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> A種 B種 C種 D種 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>電着塗膜のつき</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> A種 B種 C種 D種 </td> <td></td> </tr> </table>	[14.2.2] [表14.2]			表面処理方法	種 別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)	溶剤塗膜のつき	<ul style="list-style-type: none"> A種 B種 C種 D種 		電着塗膜のつき	<ul style="list-style-type: none"> A種 B種 C種 D種 		15 鉄骨工事 (標準)	16 鋼骨工事 (標準)	17 鋼骨工事 (標準)	18 鋼骨工事 (標準)	19 鋼骨工事 (標準)	20 鋼骨工事 (標準)	⑮ 鉄骨養生天井下地	<p>野縁等の種類</p> <p>屋外 (※25桁・19桁) 屋内 (※19桁・25桁)</p> <p>■断面の実尺寸、セロシ断面積</p> <ul style="list-style-type: none"> 野縁、上及びインターの断面積 ※90程度 屋周縁の幅からの断面積 ※因示 野縁の間隔 ※30程度 ■角トナリの断面積が90mmを超える場合 種別と寸法 ※因示 ■天舟の寸法がA1、B1以上、C1以下の場合 種別と寸法 (14.4.0)(1)~(2)による ※因示 ■天舟の寸法がC3.0mを超える場合 種別と寸法 ※因示 ■取付部の断面積 ※因示 ■取付部との接合部 ※因示 ※因示 種別と寸法 ※因示 種別と寸法 ※因示 種別と寸法 ※因示 <p>⑯ 鉄骨養生下地</p> <p>スタッド、ランナーの種類</p> <p>断面寸法 ※14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた仕様 ※因示</p> <p>スタッドの高さがA1以上を超える場合 ※因示</p>	<p>⑰ 防火戸</p> <p>⑱ アルミニウム製建具</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5) [表14.2.1]</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5)</p>	<p>8 ステンレス製建具</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5)</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 4, 5)</p>	<p>9 木製建具</p> <p>建具の加工、組立時の含水率 ※因示</p> <p>建具内部の木製建具に使用する裏面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p> <p>※フラッシュ</p> <p>裏面材の合板の種類</p>	<table border="1"> <tr> <th>※普通合板</th> <th>※化粧合板</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> </td> </tr> </table>	※普通合板	※化粧合板	備考	<ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p>											
		[14.2.2] [表14.2]																																												
		表面処理方法	種 別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)																																										
		溶剤塗膜のつき	<ul style="list-style-type: none"> A種 B種 C種 D種 																																											
		電着塗膜のつき	<ul style="list-style-type: none"> A種 B種 C種 D種 																																											
		※普通合板	※化粧合板	備考																																										
		<ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p>																																										
		① 接着剤	接着剤に含まれる可塑剤は、経年劣化の恐れとする	(12.2.2.3)	⑯ 床張り用合板	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">[12.2.2.3]</th> </tr> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>等級</th> </tr> <tr> <td>接着剤</td> <td>※12</td> <td>※1級</td> </tr> <tr> <td>床張り用合板</td> <td>※15</td> <td>※1級</td> </tr> </table>	[12.2.2.3]			施工箇所	厚さ (mm)	等級	接着剤	※12	※1級	床張り用合板	※15							※1級	21 鋼骨工事 (標準)	22 鋼骨工事 (標準)	23 鋼骨工事 (標準)	24 鋼骨工事 (標準)	25 鋼骨工事 (標準)	26 鋼骨工事 (標準)	27 鋼骨工事 (標準)	28 鋼骨工事 (標準)	① 鉄骨・防風	<p>防風、防風効果が不要な建具による鉄材及び集積材</p> <p>(12.3.1.2)</p> <p>選別部位: ()</p> <p>選別の加工位置による防風、防風効果</p> <p>選別部位: ()</p> <p>選別の加工位置による防風、防風効果</p>	<p>5 鋼骨架設屋根</p>	<p>6 鋼骨架設屋根</p>	<p>7 アルミニウム製建具</p> <p>⑱ アルミニウム製建具</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p>	<p>⑳ 網戸等</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p>	<p>9 木製建具</p> <p>建具の加工、組立時の含水率 ※因示</p> <p>建具内部の木製建具に使用する裏面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p> <p>※フラッシュ</p> <p>裏面材の合板の種類</p>	<table border="1"> <tr> <th>※普通合板</th> <th>※化粧合板</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> </td> </tr> </table>	※普通合板	※化粧合板	備考	<ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p>
		[12.2.2.3]																																												
		施工箇所	厚さ (mm)	等級																																										
		接着剤	※12	※1級																																										
		床張り用合板	※15	※1級																																										
		※普通合板	※化粧合板	備考																																										
		<ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p>																																										
		② 床張り用合板	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外		② 床張り用合板	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">[12.2.2.3]</th> </tr> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>等級</th> </tr> <tr> <td>接着剤</td> <td>※12</td> <td>※1級</td> </tr> <tr> <td>床張り用合板</td> <td>※15</td> <td>※1級</td> </tr> </table>	[12.2.2.3]			施工箇所	厚さ (mm)	等級	接着剤	※12	※1級	床張り用合板	※15							※1級									29 鋼骨工事 (標準)	30 鋼骨工事 (標準)	31 鋼骨工事 (標準)	32 鋼骨工事 (標準)	33 鋼骨工事 (標準)	34 鋼骨工事 (標準)	35 鋼骨工事 (標準)	36 鋼骨工事 (標準)	② 床張り用合板	<p>ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p>	<p>⑲ アルミニウム製建具</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p>	<p>⑳ 網戸等</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p>	<p>9 木製建具</p> <p>建具の加工、組立時の含水率 ※因示</p> <p>建具内部の木製建具に使用する裏面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p> <p>※フラッシュ</p> <p>裏面材の合板の種類</p>	<table border="1"> <tr> <th>※普通合板</th> <th>※化粧合板</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> </td> </tr> </table>
[12.2.2.3]																																														
施工箇所	厚さ (mm)	等級																																												
接着剤	※12	※1級																																												
床張り用合板	※15	※1級																																												
※普通合板	※化粧合板	備考																																												
<ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p>																																												
③ 床張り用合板	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外		③ 床張り用合板	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">[12.2.2.3]</th> </tr> <tr> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>等級</th> </tr> <tr> <td>接着剤</td> <td>※12</td> <td>※1級</td> </tr> <tr> <td>床張り用合板</td> <td>※15</td> <td>※1級</td> </tr> </table>	[12.2.2.3]			施工箇所	厚さ (mm)	等級	接着剤	※12	※1級	床張り用合板	※15	※1級	37 鋼骨工事 (標準)	38 鋼骨工事 (標準)	39 鋼骨工事 (標準)	40 鋼骨工事 (標準)	41 鋼骨工事 (標準)	42 鋼骨工事 (標準)	43 鋼骨工事 (標準)	44 鋼骨工事 (標準)																	③ 床張り用合板	<p>ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p>	<p>⑳ アルミニウム製建具</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p>	<p>⑳ 網戸等</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>外部に面する建具 A種 (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ ※適用する 遮音性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>防音ドアセット、防音サッシ G ※適用する 断熱性の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.1.6)</p> <p>耐震ドアセット ※適用する 耐震性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p> <p>耐火ドアセット ※適用する 耐火性能の等級 (※建具による) (建具符号: ※建具による) (16.2.2, 3)</p>	<p>9 木製建具</p> <p>建具の加工、組立時の含水率 ※因示</p> <p>建具内部の木製建具に使用する裏面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p> <p>※フラッシュ</p> <p>裏面材の合板の種類</p>	<table border="1"> <tr> <th>※普通合板</th> <th>※化粧合板</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 </td> <td> <p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> </td> </tr> </table>
[12.2.2.3]																																														
施工箇所	厚さ (mm)	等級																																												
接着剤	※12	※1級																																												
床張り用合板	※15	※1級																																												
※普通合板	※化粧合板	備考																																												
<ul style="list-style-type: none"> ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<ul style="list-style-type: none"> ※1種 ※2種 ※3種 ※4種 ※5種 ※6種 ※7種 ※8種 ※9種 ※10種 	<p>表面の等級</p> <p>使用の仕様</p> <p>生地の選定方法</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p> <p>※1種程度</p> <p>※2種程度</p> <p>※3種程度</p> <p>※4種程度</p> <p>※5種程度</p> <p>※6種程度</p> <p>※7種程度</p> <p>※8種程度</p> <p>※9種程度</p> <p>※10種程度</p>																																												

12 自閉式上吊り引張機	性能	※縦仕 表16.10による	[16.10.3]	
	13 重量シャッター	<p>シャッターの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般重量シャッター 外吊り防火シャッター 屋内用防火シャッター 屋内用防煙シャッター <p>閉鎖機能による種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※手動駆動(手動押用) ※上部手動リモコンの有無 ※有線 ※無線 ※有線(リモコン駆動) ※無線(リモコン駆動) <p>電圧の種別</p> <ul style="list-style-type: none"> ※単相200V ※三相200V ※三相200V以下(過電流保護装置付) <p>一般重量シャッターのシャッターケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ※取付ける ※取付けない <p>スラスト及びシャッターケース用鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼板の種類 ※JIS B 3302(溶熱処理めっき鋼板) ※JIS B 3312(溶熱処理めっき鋼板) めっきの付着量 ※Z72又はF12 	[16.11.2, 3]	
14 軽量シャッター	開閉方式	※手動	①手動駆動(手動押用)	[16.12.2-4]
	シャッターケース	※取付ける	※取付けない	
15 オーバーヘッドドア	スラストの材質	※JIS B 3312(溶熱処理めっき鋼板)		
	めっきの付着量	※Z72又はF06		
16 ガラス	ガラスの種類	※JIS B 3322(溶熱処理アルミニウム重合合金めっき鋼板)		
	めっきの付着量	※Z72又はF06		
17 カンチンテール工事	主要部材の耐圧性能(ガラスを除く)	耐圧性能	状態	
	主要部材の耐圧性能(ガラスを除く)	耐圧性能	状態	

17 カンチンテール工事	主要部材の耐圧性能(ガラスを除く)	耐圧性能	状態
	主要部材の耐圧性能(ガラスを除く)	耐圧性能	状態
18 遮熱表示	形状、寸法、材質	※表示	
	19 屋根	形状、寸法、材質	※表示
17 カンチンテール工事	取付方法、性能等	取付方法	性能等
	取付方法、性能等	取付方法	性能等

18 遮熱表示	形状、寸法、材質	※表示	
	19 屋根	形状、寸法、材質	※表示
17 カンチンテール工事	取付方法、性能等	取付方法	性能等
	取付方法、性能等	取付方法	性能等

18 遮熱表示	形状、寸法、材質	※表示	
	19 屋根	形状、寸法、材質	※表示
17 カンチンテール工事	取付方法、性能等	取付方法	性能等
	取付方法、性能等	取付方法	性能等

19	システム天井	種別	1. パネル材質		備考				
		・ラインタイプ ・ダブル ・ボックスタイプ 右に示す製造所の商品規格となる。()	・アルミニウム製 ・樹脂						
16	浴室天井材	材質	種別	備考					
		※樹脂塩化ビニル ・アルミニウム製(非不燃品) ・()	※300 ・100 ・()	新物料を要した140の付属品材の納入製造所の仕様による					
20	フリークアセフリア	施工箇所	寸法	高さ	所要電圧	表面仕上げ	備考		
		※450角以上 600角以下	※100 ・120	※3000 ・5000	※R44～P1				
2	可動開閉仕切	構造形式	構造基材の種類	総厚さ	表面仕上げ	防火性能	備考		
		・スタッド式(内装) ・スタッド式(外装) ・パネル式 ・スタッドパネル式	スタッド パネル	(mm) ・30以上	パネル表面 仕上げ ・36未満 ・36以上	圧縮処理 仕上げ	遮音性 (DB-100K)		
4	トイレブース	表面材の種類	色別	初期	形状	スエッジ、形状	備考		
		※メラミン樹脂系化粧紙 ・ポリエステル樹脂系化粧紙	※無垢 ・樹脂	※縦型タイプ ・R	※縦型 ・R	※アルミニウム製 ・アルミニウム製 ・樹脂系化粧材			
5	視覚障害者用床タイル	施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)				
		廊内	・塩化ビニル製 ・樹脂製タイル ・セコ樹脂タイル ・レジコンクリート製 ・コンクリート製	※300×300 ・300×300 ・300×300	・30 ・30 ・30				
7	床目録	種類	備考						
		・集材材手すり 形式 種別 材質 仕上 ・型 ※35 ・35φ ※45φ ※タモ ※R4							
8	手すり	材質	種別	備考					
		・型(1階) ※40φ ※R0型(2階) ※34φ	・アルミ合金製 ・心材(アル材)	指づの防止材					
9	黒板及びホワイトボード	種類	寸法(mm)	色別	形状				
		・黒板 ※縦付け ・ホワイトボード ※横置き	※縦・横	※平面・曲面	・A4用紙引分 ・A3用紙引分				
10	鏡	取付箇所	寸法(mm)	備考					
		壁面	※取付高 ・1800 ・2400						
11	煙突ライニング	適用温度	備考						
		・標準型 ※400℃ ・高耐熱型 ※650℃							
12	ブラインド	形式	操作方式	スラットの材質	折り曲げ	スラットの材質	寸法	取付箇所	備考
		・縦型 ・横型 ・電動	※手動 ・コード式 ・操作機式	※アルミニウム 合金製	※25 ※鋼製				
13	ロールスクリーン	構造形式	操作方法	透光性	寸法(mm)	取付箇所	備考		
		※ポリエステル ※アルミニウム ※フェニル	※電動 ※手動						
14	カーテン	形式	取付箇所	備考					
		・シングルス ・ダブル	※吊り ※ピン						
15	カーテンレール	材質	寸法(mm)	取付箇所	備考				
		アルミニウム製 ・樹脂製	※1000 ・1500 ・2000						
17	コーピーボード	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)					
		・シールド ・ダブル	※1000 ・1500 ・2000	・30 ・30 ・30					
19	天井床開口	材質	寸法	形状	外枠	内枠			
		アルミニウム製 ・樹脂製	※450×450 ・600×600	・一般形 ・凹内用 ・凸形	※樹脂タイプ ※铝タイプ	※樹脂タイプ ※铝タイプ			

22 プロック系舗装

・コンクリート平板舗装 [22.9.2.1]

種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考
※普通平板 (N)	※300角	※60	※砂	表面加工 ・磨ぎ出し ・洗い出し ・たたく出し
・透水平板 (P)			・モルタル	

歩道部に使用するコンクリート平板は ☐ (再生材料を用いた舗装用ブロック) とする。透水平板は ☒ (透水性コンクリート) とする。
ただし、設置期間中は監視員と協議を行うものとする。
仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内

インターロッキングブロック舗装 [22.9.2.3]

種類	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/m ²)	備考
※貫入ブロック (N)	※厚さ前 ※80	※5.0	・色彩・表面加工 ※標準品
・透水ブロック (P)	厚さ前 ※60	※3.0	

歩道部に使用するブロックは ☐ (再生材料を用いた舗装用ブロック) とする。透水性ブロックは ☒ (透水性コンクリート) とする。
ただし、設置期間中は監視員と協議を行うものとする。
仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内

・碎石舗装 [22.9.2.2]

種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基礎
※小粒径 (花ごころ粒)		※ 60	※ たるご振り	※ コンクリート舗装
・				※ アスファルト舗装

仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、碎石間の段差は3mm以内

9 砂利敷き [22.10.1]

種類

・A種 (加工範囲) ・隠蔽 ・通過 ()

・B種 (加工範囲) ・隠蔽 ・建物前面 ()

10 舗装補修用材料

JIS K 5665 (舗装補修用材料) にによる

種類	施工	適用	色	幅 (mm)	変形厚さ (mm)
・1種 ☐	薄塗			※ 150	1.0
・2種 ☒	流動	※ 自		※ 100	
※3種 1号	流動	粉砕状			

☐ 低揮発性有機溶剤型の舗装補修用水性塗料

11 車止め

車止めの規格はコンクリート W200×L600×H120 小型反折板付き
全面接着アンカー併用固定 (埋込み30mm×埋込65mm以上)

23 緑地の植栽等

植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度 (pH) 試験 ・行う ・行わない (23.1.3)
水溶性塩類 (EC) 試験 ・行う ・行わない

植栽基盤の整地

樹種	工法	有効土層の厚さ (mm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高10m以上 (80100 × 120 × 150) 樹高7m以上〜12m未満 (880 × 100) 樹高3m以上〜7m未満 (840 × 80) 樹高2m未満 (880 × 60)	・富集り部分 ※隠蔽	・適用する ・適用しない
	※B種	※30	・結露部分 ※隠蔽	・適用する ・適用しない
	※芝、地被類			

注し、現状地盤より高さが上がる場合はB種とする。

3 緑地改良土

結露改良排水設備 ・設ける (※隠蔽) ・設けない (23.2.3)

※現場発生土の良質土 ・密土 (23.2.3)

4 土壌改良材

・適用する 施工範囲 (※隠蔽) (23.2.3)

・バーグ埋埋 ☑

検 査 要 素	検 査 標 準
有機物の含有率 (乾物)	: 30%以上
炭素窒素比 (C/N比)	: 35以下
陽イオン交換容量 (乾物)	: 70meq/100g以上
pH	: 5.5〜7.5
水分	: 10〜40%
結核菌検査の結果	: 全ての検管その他の異常が認められない
窒素含量 (乾物)	: 0.5%以上
リン酸含量 (乾物)	: 0.2%以上
加里含量 (乾物)	: 0.1%以上

施工前の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び設置困難な場合は監視員と協議を行うものとする。

・汚泥調整剤 (下水処理コンポスト) ☐

〔金属等を含む産業廃棄物に係る特定基準を定める省令〕の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、品質試験の結果、省が認められないものとする。

検 査 要 素	検 査 標 準
有機物の含有率 (乾物)	: 35%以上
炭素窒素比 (C/N比)	: 20以下
pH	: 5.5以下
水分	: 30%以下
窒素含量 (乾物)	: 0.5%以上
リン酸含量 (乾物)	: 1.0%以上
アルカリ分	: 15%以下 (ただし、土壌の酸性を矯正する目的で使用する場合はこの限りではない)

施工前の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び設置困難な場合は監視員と協議を行うものとする。

23 樹木

樹種、寸法、株立数等 ※図示 (23.3.1)

6 支柱

支柱材 ※丸太 ・真竹 (23.3.2、3)

支柱留め方法 ※圧入防振固定材

材料 ※図示

7 幹巻き用材料

材料 ※幹巻き用テープ ・わら及びこも (23.3.2)

8 定

種類 ※ コウライシバ ・ノシバ (23.4.2)

・芝類の人工芝

・地盤 固定地盤張り

・バた張り

・目地張り ※バた張り

9 収付けは種

種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m ²)	備考
※播種期 (採取後2年以内)	※発芽率90%以上		

10 地被用

樹種	コンテナ径	単位産出量当たりのコンテナ数	背立数

11 緑上緑化 ☑

緑地改良材料 (23.5.2、3)

・緑上緑化システム

土壌層の厚さ ・隠蔽

排水層 ・緑土層 (厚さ ()) ・販成成形品

植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土

根元の保護及び根腐防止剤、寸法、株立数、寸法等 ※図示

・剪切り材、保護材、木焼き等、マルチング材等 ※図示

・根上緑化用システム

芝及び地盤緑化の根腐防止剤類等 ※図示

・剪切り材、保護材、木焼き等、マルチング材等 ※図示

・支柱 ・設置する (樹式) ・隠蔽 ()

かん水装置 ※設置する (浅層 ())

12 樹木札

支柱材 ※加圧防振固定材 ・真竹 (23.3.3)

幹巻き用材料 ※幹巻き用テープ ・わら及びこも (23.3.2)

樹木札 ※記号による ・監督員取次用による (文字は黒ペン書きとする) (23.3.2)

(上・中木用)

13 樹木の結核菌

※別冊の目から1年 ・ () (23.3.4) (23.3.6)

その他の検査項目

基礎工事関係の検査項目

作成年月

工事名称

分 A) S E M

NO. O 8

担当責任者

製図

概尺

図面名称

NO. NS

一級建築士 日高雅人

NO. (登録番号 第262818号)

JOB NO.

ストックヤード建設工事

建築工事特記仕様書 (7)

O 1 設計概要	
1) 敷地・建物概要	
工事名称	ストックヤード建設工事
建物場所	阿久根市多田3771-1の一部、3798-8の一部
地域指定	都市計画区域内
防火指定	指定無し
その他の指定	指定無し
敷地面積	17,200.00 m ²
容積率・建ぺい率	400% 70%
前面道路巾員	4.85m~6m 市道丸内併井線
建築用途	保管倉庫
工事の種別	新築工事
最高高さ	5.87 m
最高軒高	4.7 m
建築面積	283.0 m ²
延べ面積	280.0 m ²

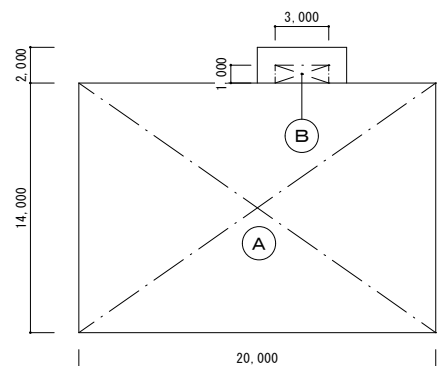
O 2 特記事項	
1	電気設備は建築基準法第32条を遵守する。
2	給水、排水その他の配管設備は、建築基準法第36条令129条の2の4に基づき施工すること。
3	建築材料の品質は建築基準法第37条を遵守する。
4	外部に使用する釘、ビス、アンカー、ボルト等で特記以外は全てSUS304とする
5	コンクリート打ち放しは特記なき限り、外部20mm、内部10mmフカシとする。
6	土間コン配筋：D10@200(好33共)
7	異種材取合い及び漏水の恐れある部分は全てシールをすること。
8	(ポリサルファイド系は露出、変性シリコン、ウレタンは塗装かぶせを基本とする。)

O 3 外部仕上表			
部位	仕上	部位	その他
屋根	t=0.4 アルミ・亜鉛合金めっき鋼板 立馳葺き アスファルトルーフィング22kg 木毛セメント板t=25下地		合併処理浄化槽(5人槽)
唐草	屋根同材		
水切り	屋根同材		
腰壁	化粧型枠コンクリート打ち放し補修		
外壁	窯業系サイディング t=16(不燃) 通気金具留め工法 横貼 防透湿防水シート貼		
土台水切	t=0.35 アルミ・亜鉛合金めっき鋼板		
外構	—		

O 4 内部仕上表							
部屋名	床	巾木	下地	壁(腰壁)	天井	高さ	備考
保管室(1)	コンクリート金こて仕上			腰壁：コンクリート打ち放し補修 鉄骨現わし	鉄骨現わし 合板現わし	—	天井ホイストレール(チェーンブロック用)0.5t(建築) 誘導標識 消火器
保管室(2)	コンクリート金こて仕上	7/7巾木 H=60	LGS下地	腰壁(外壁側)：コンクリート打ち放し補修 石膏ボードt12張りの上 EP-G塗	化粧石膏ボードt9.5張り	2.700	誘導標識 消火器
管理者室	コンクリート金こて仕上	7/7巾木 H=60	LGS下地	腰壁(外壁側)：コンクリート打ち放し補修 石膏ボードt12張りの上 EP-G塗	化粧石膏ボードt9.5張り	2.700	
洗面	長尺塩ビシート貼 t=2.5	7/7巾木 H=60	LGS下地	耐水石膏ボードt12.5張りの上EP-G塗	化粧石膏ボードt9.5張り	塩ビ 2.500	面台：ポストフォーム、ピクトサイン 手洗い器、鏡
男女兼用トイレ	長尺塩ビシート貼 t=2.5	7/7巾木 H=60	LGS下地	耐水石膏ボードt12.5張りの上EP-G塗 腰壁：耐水石膏ボードt12.5張の上化粧ケイカル板t6貼	化粧石膏ボードt9.5張り	塩ビ 2.500	面台：ポストフォーム、洋便器 換気扇、紙巻き器
多目的トイレ	長尺塩ビシート貼 t=2.5	7/7巾木 H=60	LGS下地	耐水石膏ボードt12.5張りの上EP-G塗 腰壁：耐水石膏ボードt12.5張の上化粧ケイカル板t6貼	化粧石膏ボードt9.5張り	塩ビ 2.500	面台：ポストフォーム、洋便器、小便器 換気扇、小便器手摺、腰掛ハネ上げ手摺、紙巻き器

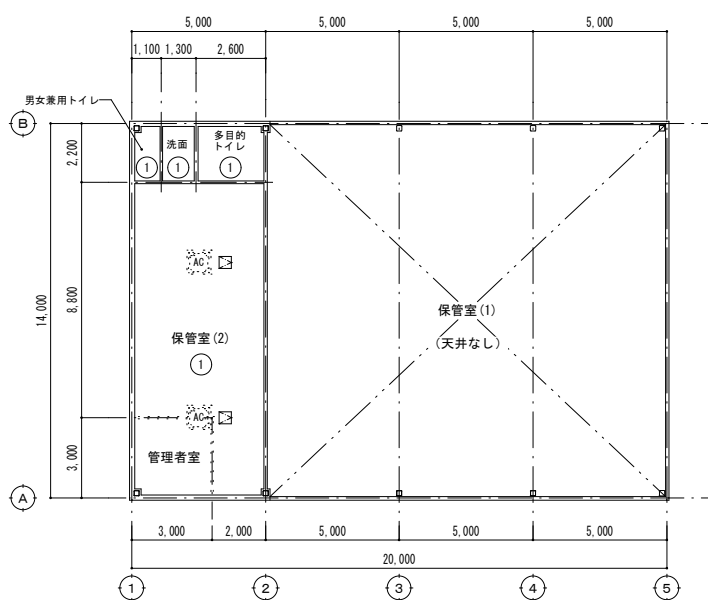
O 5 求積図	1/300
---------	-------

O 6 天井伏図	1/200
----------	-------



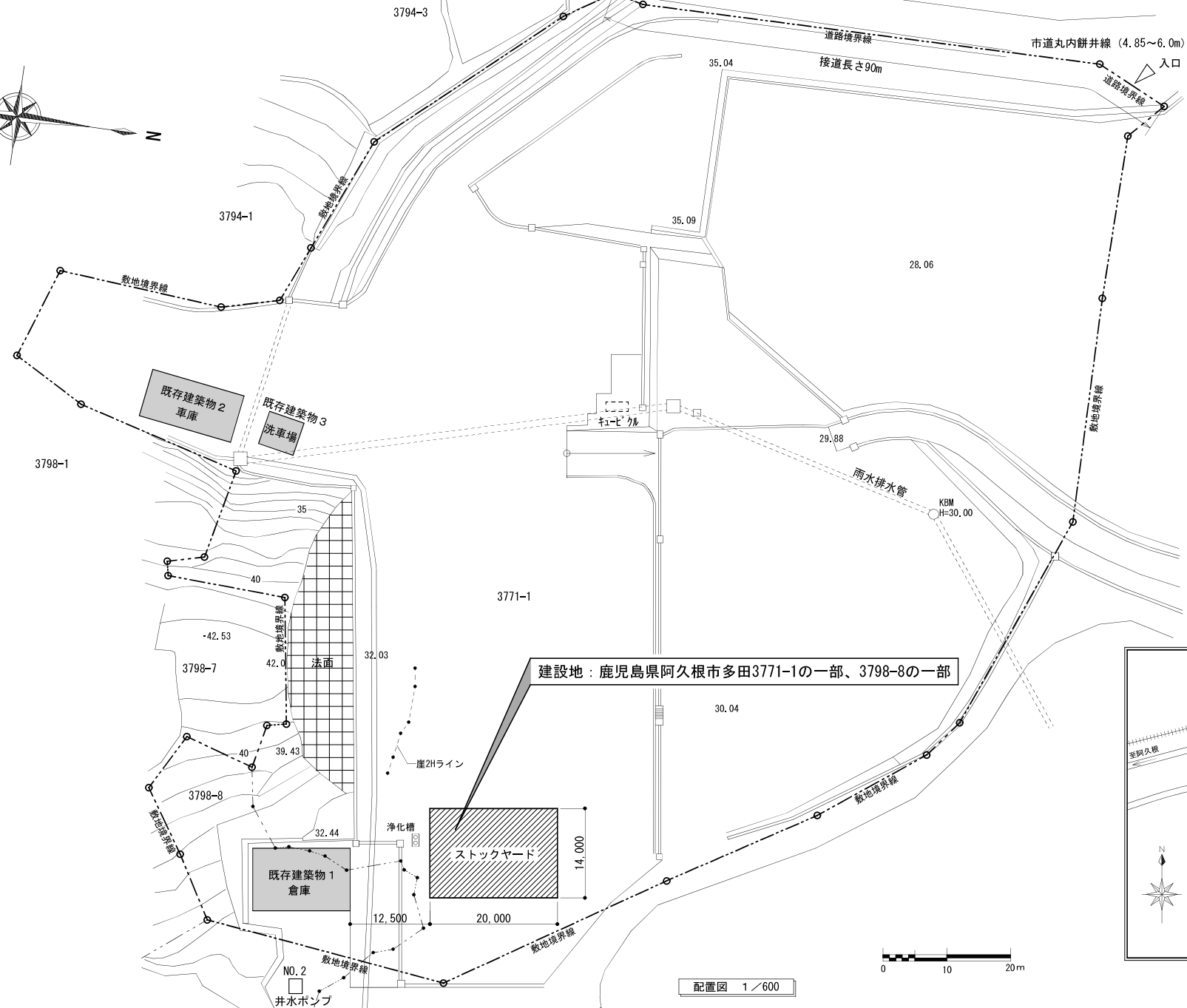
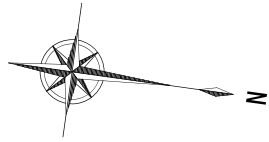
建築面積	
(A)	20.0×14.0 = 280.0
(B)	3.0×1.0 = 3.0
計	283.0 m ²

床面積
 (A) 20.0×14.0=280.0m²

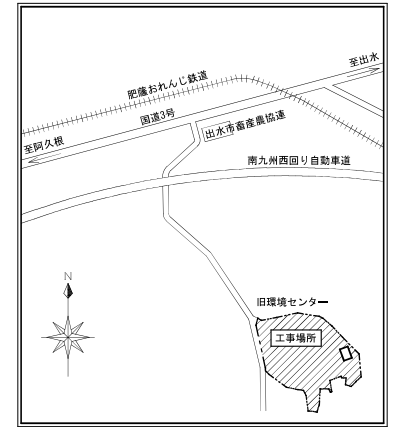


天井仕上凡例	
①	化粧石膏ボード t=9.5張り(LGS天井下地)
	天井裏：グラスウール t=50mm(保管室(2))

- ☒ 天井点検口 450口
- 天井開口補強 900角×2ヶ所
- 天井開口補強 450角×2ヶ所

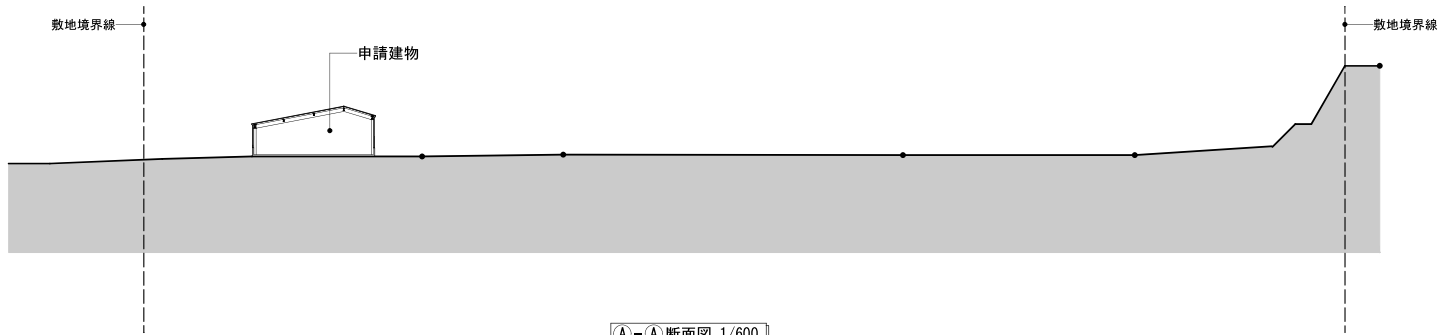


配置図 1/600

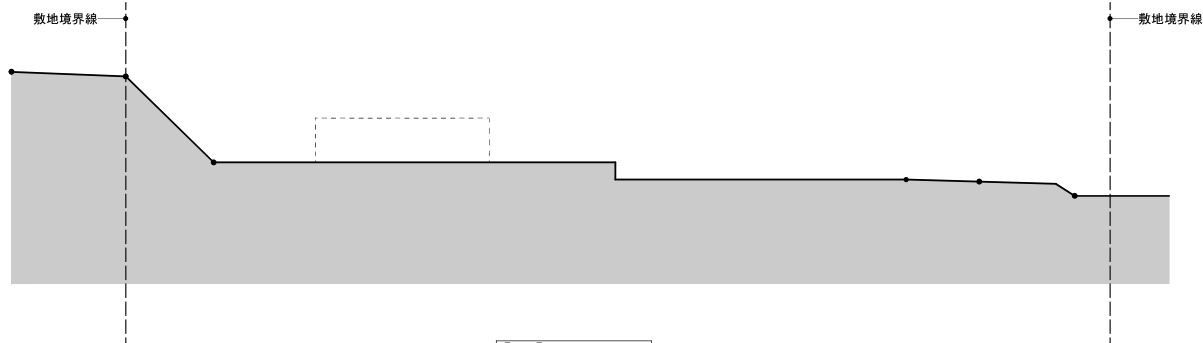


付近見取図

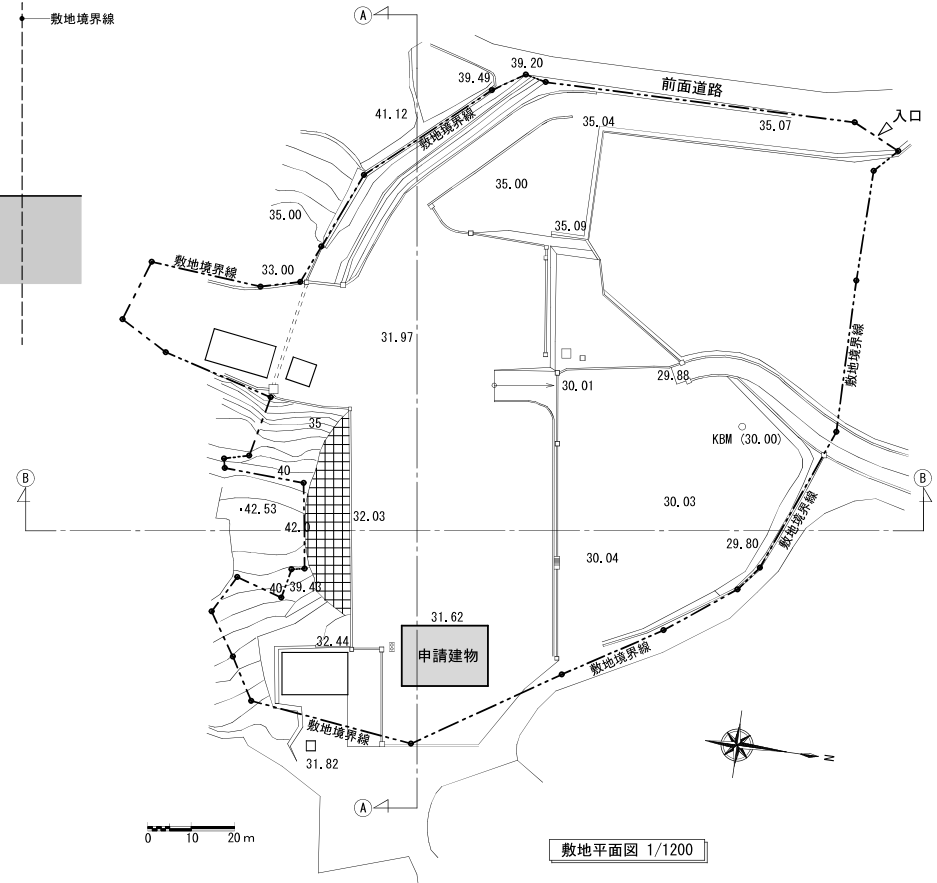
	株式会社 下舞設計	承認	作成年月日	工事名称	区分
	鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-1114	担当責任者 数田	略尺	ストックヤード建設工事	① A B E M
			A3 : 1/600	図面名称 配置図・付近見取図	一級建築士 白高雅人
					NO. 10
					(登録番号 第262818号)
					308 NO.



(A)-(A) 断面図 1/600

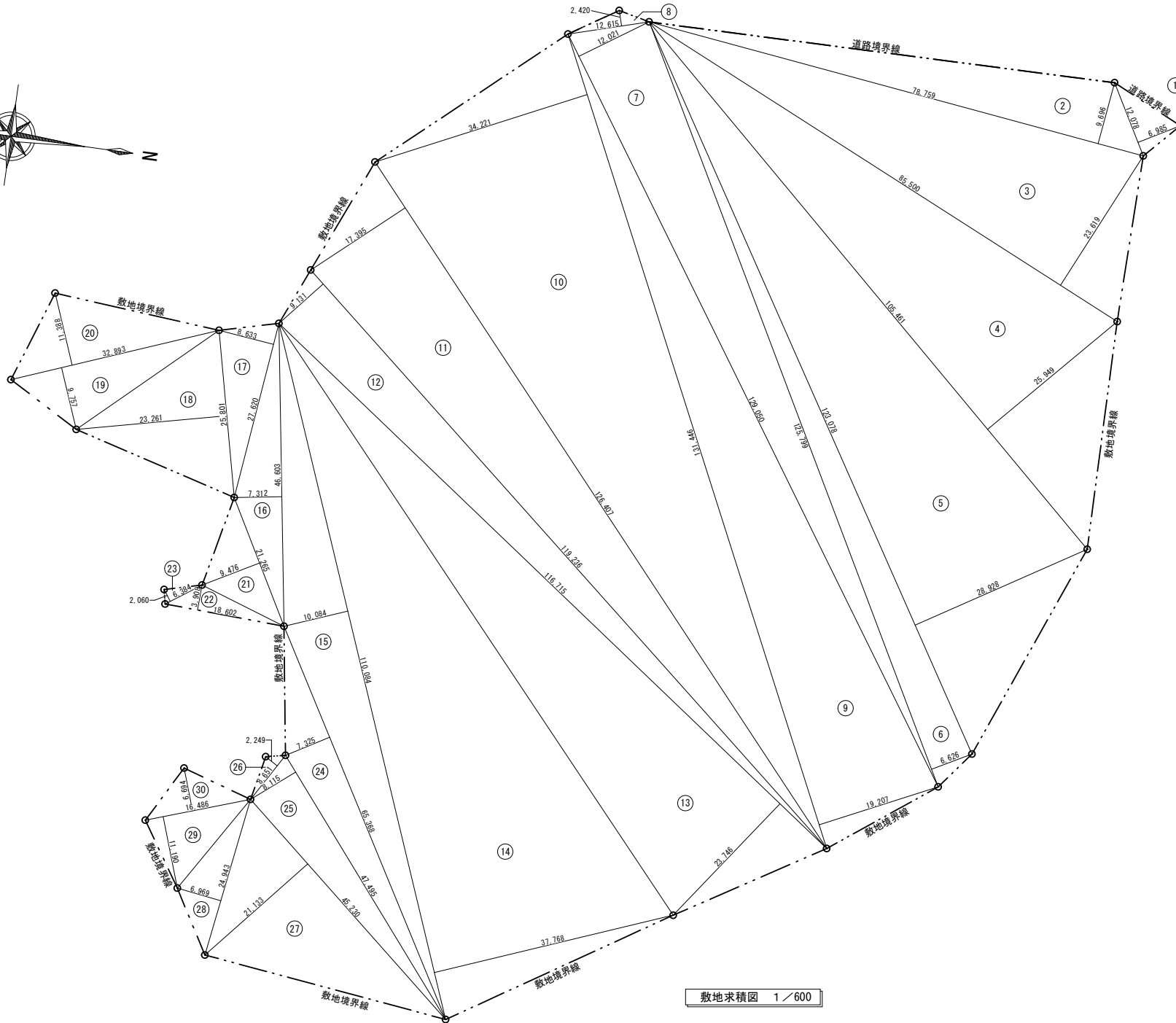
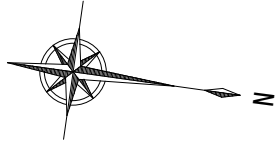


(B)-(B) 断面図 1/600



敷地平面図 1/1200

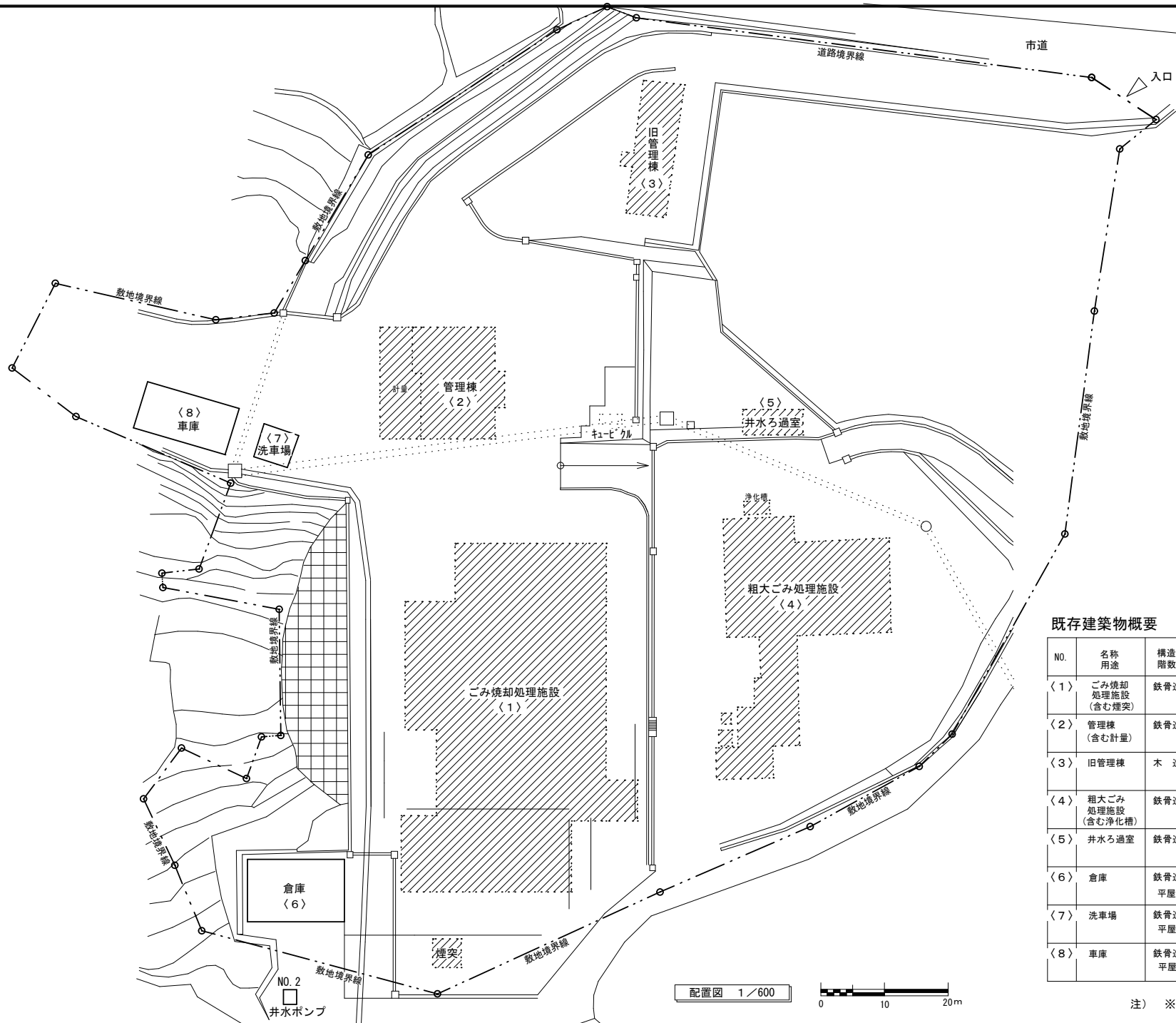
 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者 数田	縮尺 A3: 1/600, 1200	図面名称 敷地断面図	一級建築士 白鳥雅人 (登録番号 第262818号)
				図号 10-1
				図名 10-1



①	12.078×6.985	84.364
②	78.759×9.696	763.647
③	85.500×23.619	2,019.424
④	105.461×25.949	2,736.607
⑤	123.078×28.928	3,560.400
⑥	125.799×6.626	833.544
⑦	129.050×12.021	1,551.310
⑧	12.615×2.420	30.528
⑨	131.446×19.207	2,524.683
⑩	131.446×34.221	4,498.213
⑪	126.407×17.395	2,198.849
⑫	119.236×9.131	1,088.743
⑬	116.715×23.746	2,771.514
⑭	110.084×37.768	4,157.652
⑮	110.084×10.084	1,110.087
⑯	46.603×7.312	340.761
⑰	27.620×8.633	238.443
⑱	25.801×23.261	600.157
⑲	32.893×9.757	320.937
⑳	32.893×11.388	374.585
㉑	21.265×9.476	201.507
㉒	18.602×3.908	72.696
㉓	6.384×2.060	13.151
㉔	65.368×7.325	478.820
㉕	47.495×8.115	385.421
㉖	8.651×2.249	19.456
㉗	45.230×21.133	955.845
㉘	24.943×6.969	173.827
㉙	16.486×11.190	184.478
㉚	16.486×6.694	110.357
合計		34,400.006

∴敷地面積 34,400.006×1/2=17,200.003 m²

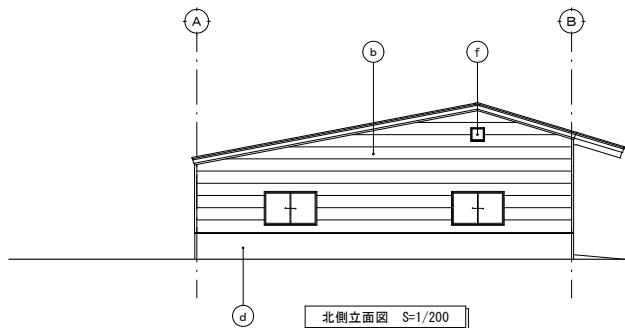
敷地求積図 1/600



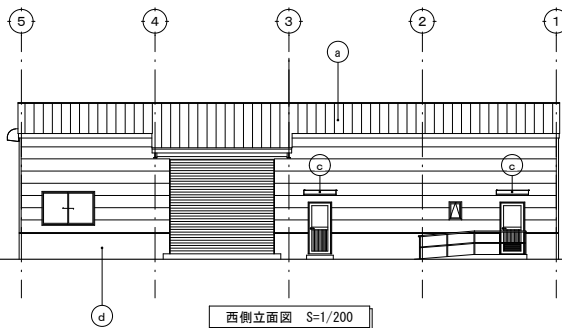
既存建築物概要

NO.	名称 用途	構造 階数	建築面積		耐火・準耐火	確認申請 確認通知	検査済証	備考
			延床面積					
<1>	粗大ごみ処理施設 (含む煙突)	鉄骨造				増築申請 H12/11/16		※1
<2>	管理棟 (含む計量)	鉄骨造						※1
<3>	旧管理棟	木造						※1
<4>	粗大ごみ処理施設 (含む浄化槽)	鉄骨造						※1
<5>	井ろ過室	鉄骨造						※1
<6>	倉庫	鉄骨造 平屋	150㎡ 150㎡		指定なし	H7/10/19 確認通知 第350号		無し
<7>	洗車場	鉄骨造 平屋	31.72㎡ 31.72㎡		指定なし	H2/12/4 確認申請済		無し
<8>	車庫	鉄骨造 平屋	110.11㎡ 110.11㎡		指定なし	H2/12/4 確認申請済		無し

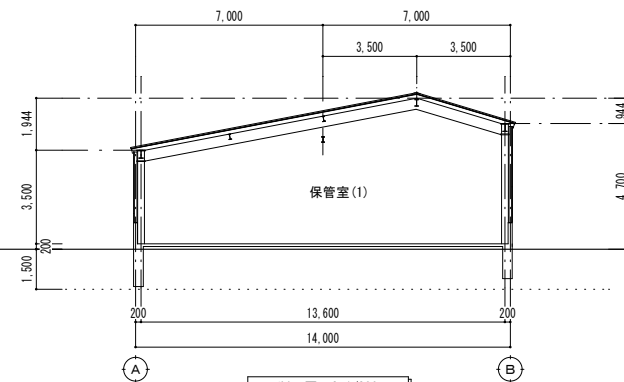
注) ※1 令和6年度中に解体撤去済み



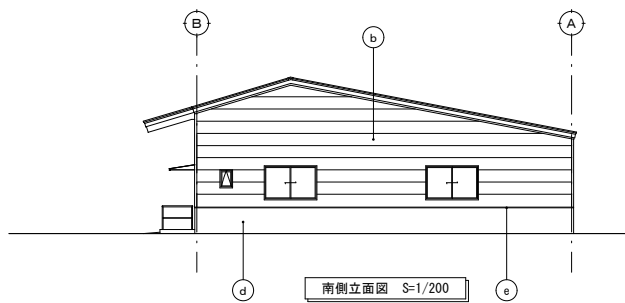
北側立面図 S=1/200



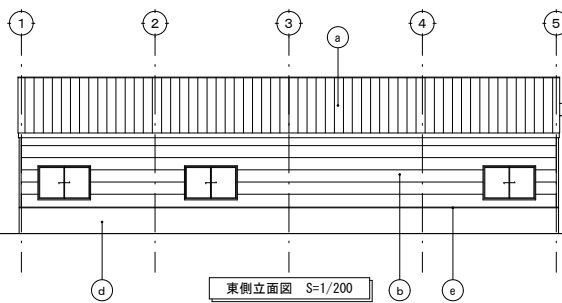
西側立面図 S=1/200



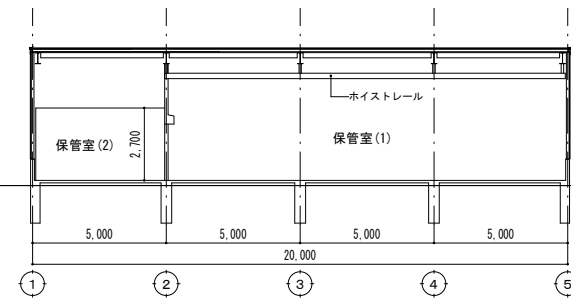
断面図 S=1/200



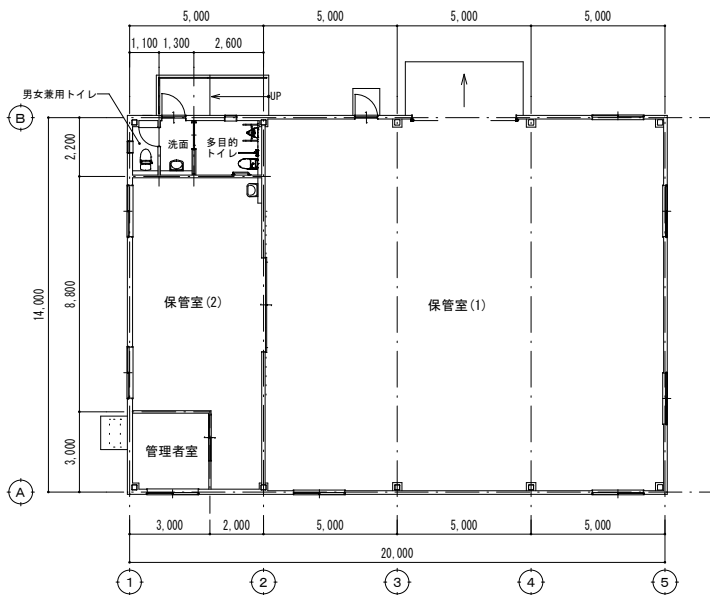
南側立面図 S=1/200



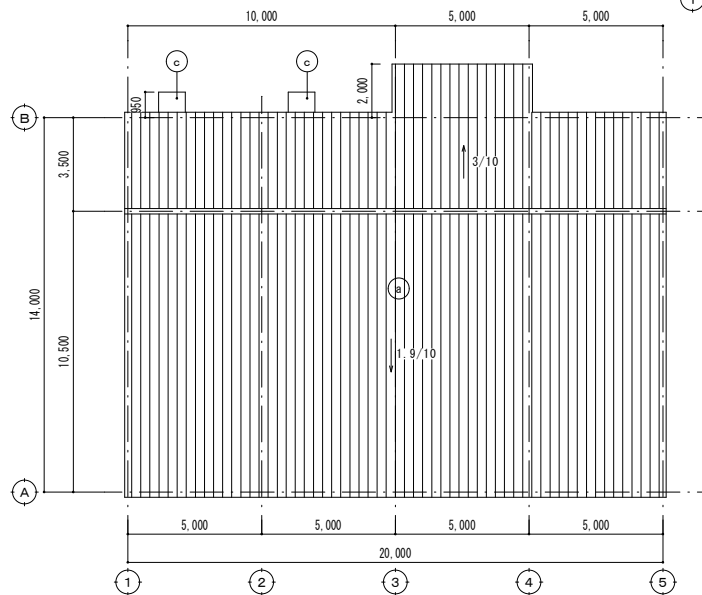
東側立面図 S=1/200



断面図 S=1/200

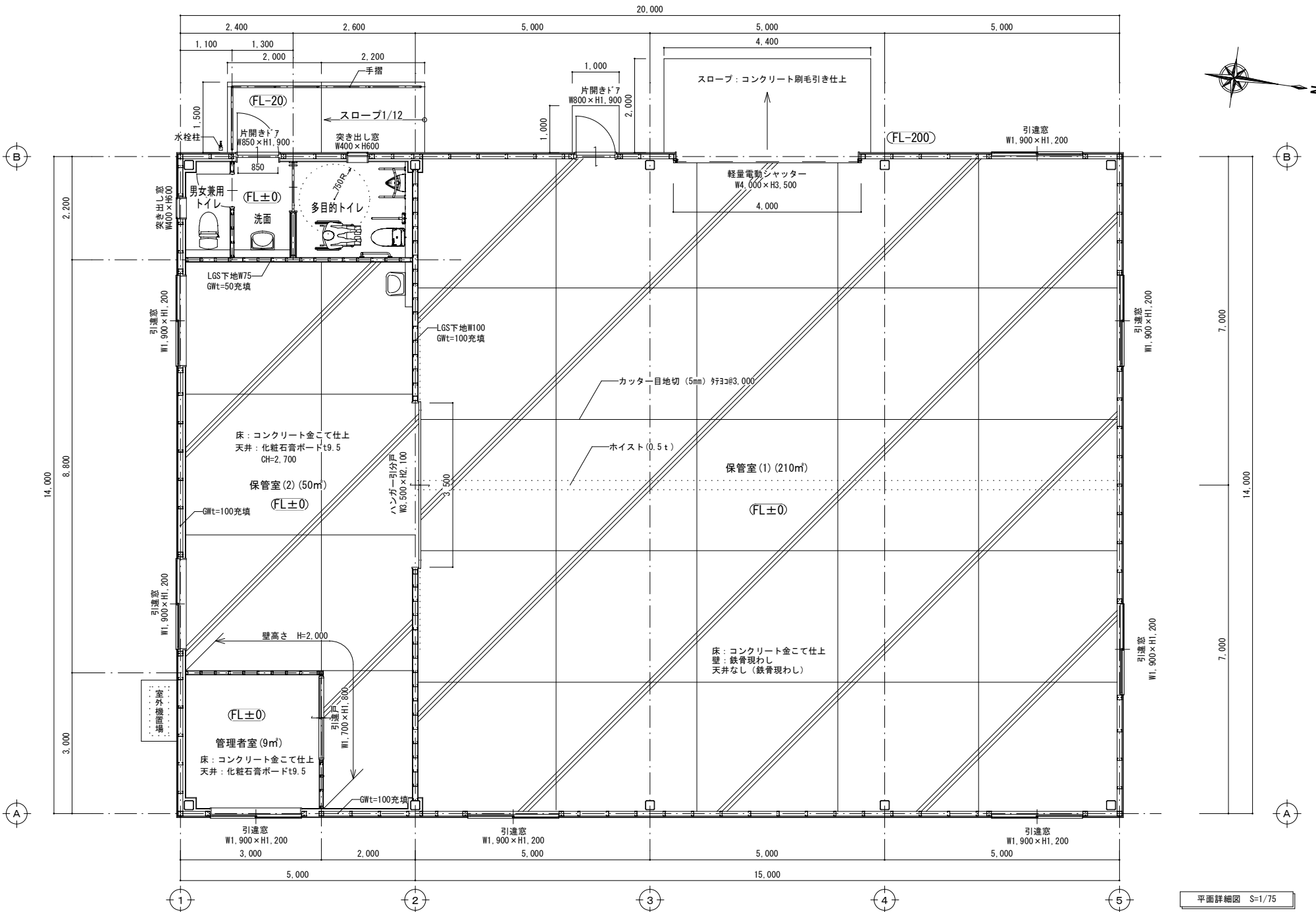


1階平面図 S=1/200



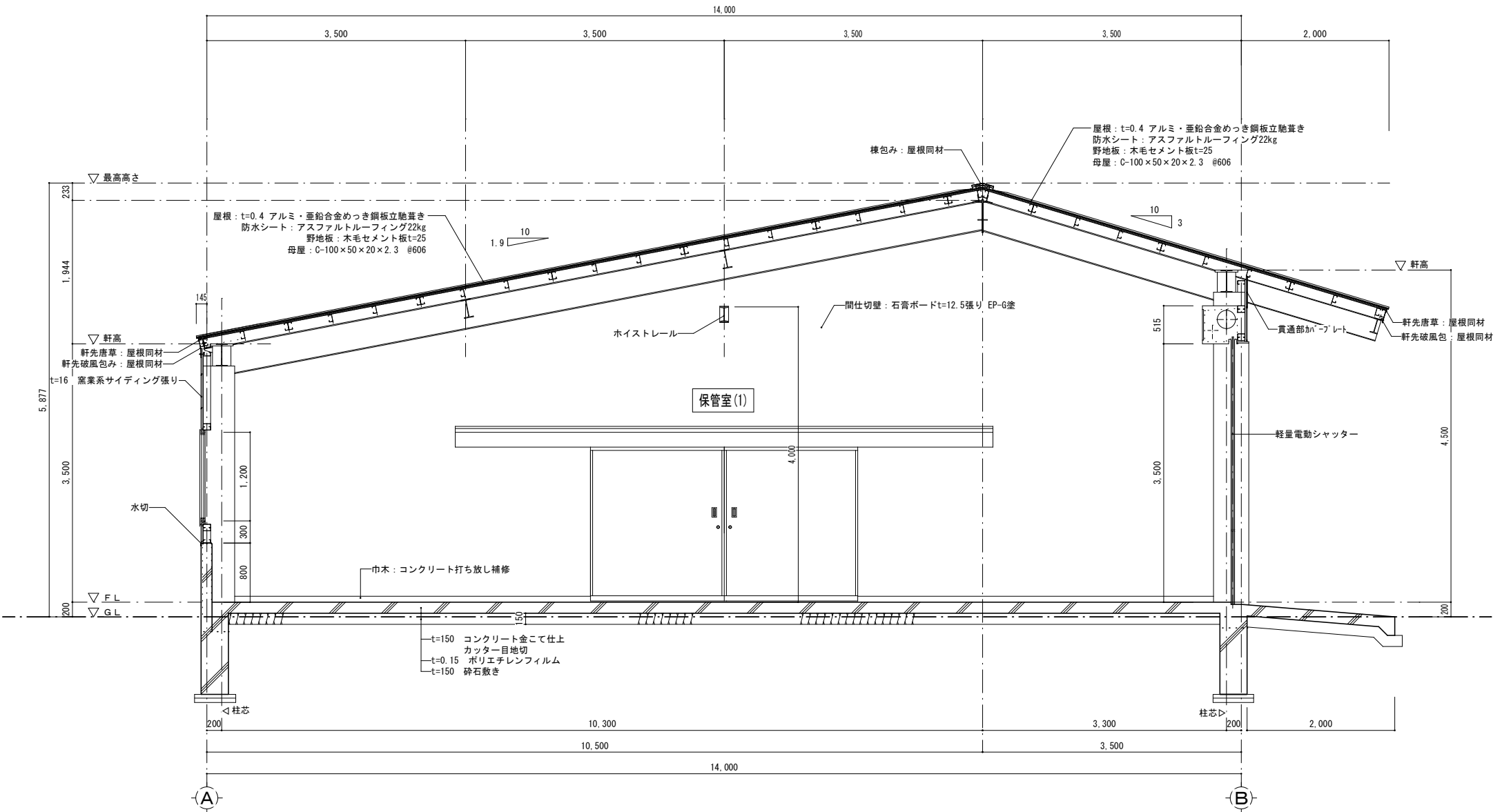
屋根伏図 S=1/200

外部仕上凡例	
(a)	屋根: t=0.47mm・亜鉛合金めっき鋼板 立馳葺き
(b)	外壁: 窯業系サイディング t=16 通気金具留め工法
(c)	庇: 7mm既製品 (出幅950mm)
(d)	外部巾木: コクリト打ち放し補修
(e)	水切: 7mm・亜鉛合金めっき鋼板 t=0.35
(f)	換気フード (設備工事) 400φ



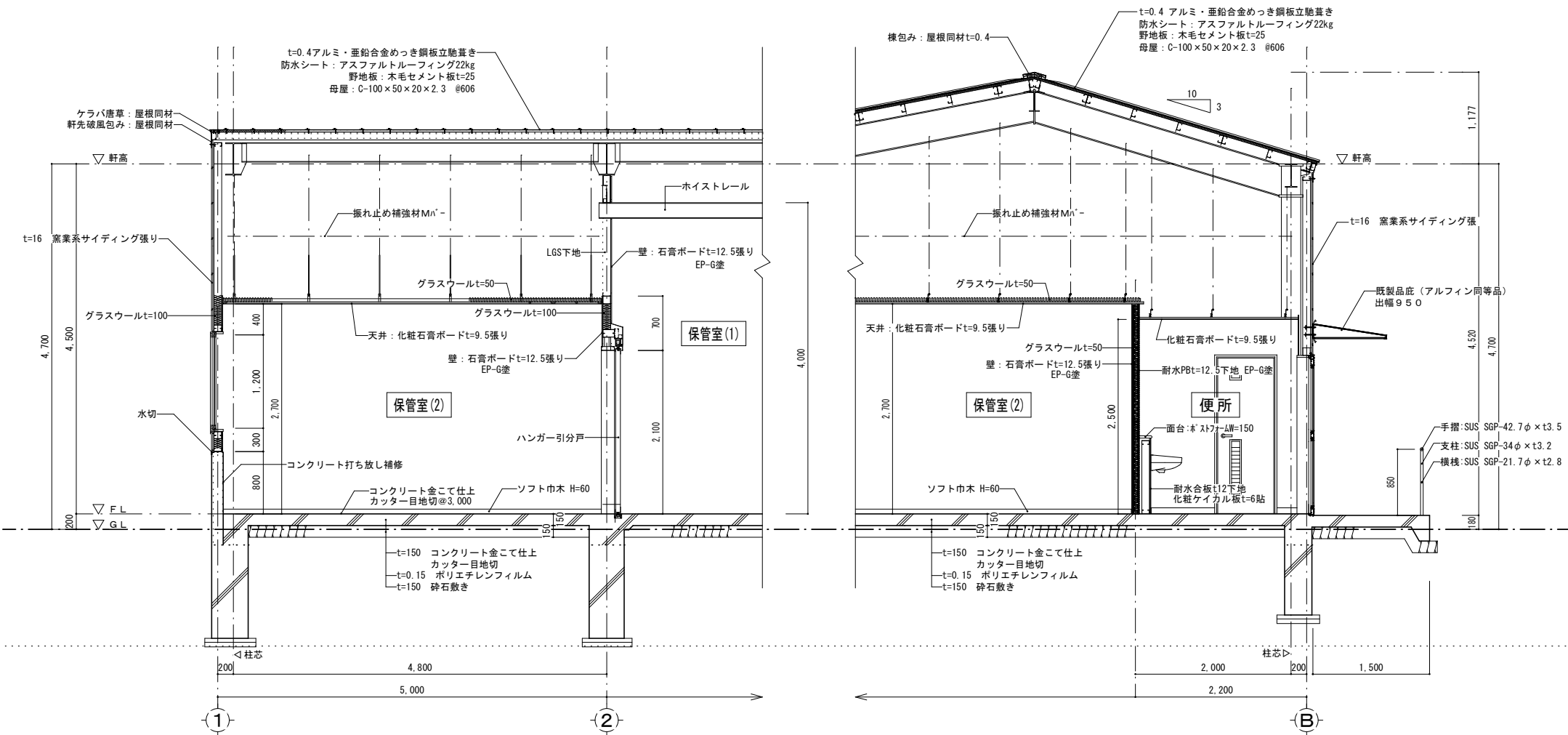
平面詳細図 S=1/75

株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	NO.
		A3 : 1/75	ストックヤード建設工事	14
			図面名称	JOB NO.
			平面詳細図	



矩計図(1) S=1/50

 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3: 1/50	ストックヤード建設工事	① B E M
			矩計図(1)	NO. 15
				JOB NO.



矩計図(2) S=1/50

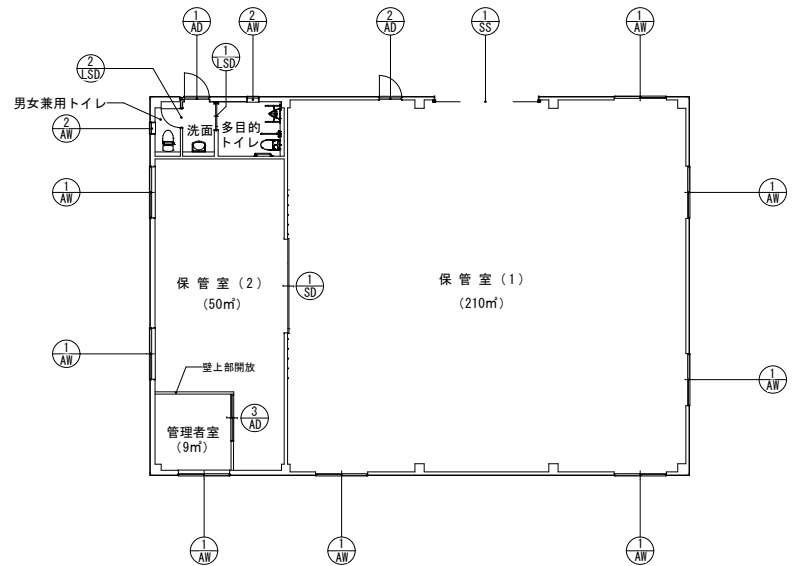
 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3 : 1/50	ストックヤード建設工事	① B E M
			矩計図(2)	16
				（登録番号 第262818号）
				JOB NO.

符号・名称 数量	①SS 軽量電動シャッター	1	①AW 引違い窓（半外付け）	8	②AW 突き出し窓（半外付け）	2	①AD 片開きドア（半外付け）	1	②AD 片開きドア（半外付け）	1	③AD 引き違い戸	1
形状寸法												
室名	保管室(1)		保管室(1)・保管室(2)・管理者室		男女兼用トイレ、多目的トイレ		トイレ入口		保管室(1)入口		管理者室入口	
材質	スチール		アルミ		アルミ		アルミ		アルミ		アルミ	
仕上	SOP塗		アルマイト		アルマイト		アルマイト		アルマイト		アルマイト	
金物	スチール座板、スチール化粧柱1.6		クレセント、戸車、アルミ水切り		カムラッチハンドル		丁番、ドアチェック、サムターン		丁番、ドアチェック、シリンダー錠		型板ガラス t=4.0 (下部：強化ガラスt=5)	
硝子			型板ガラス t=6.0		型板ガラス t=4.0		型板ガラス t=4.0		型板ガラス t=4.0			
見込	220		70		70		115		70			
備考	急降下防止装置、電動開閉装置、障害物監視装置付 付属金物一式		可動網戸（合成樹脂） アルミ四方額縁（保管室は無し）		内開き網戸（合成樹脂） アルミ四方額縁、アルミ水切り		レバーハンドル アルミ四方額縁		レバーハンドル		引き手 アルミ三方枠、下枠：ステンレス	

符号・名称 数量	①SD ハンガー引分戸（外付けタイプ）	1	①USD 片引込ハンガー戸	1	②USD 片開フラッシュドア	1
形状寸法						
室名	保管室(2)		多目的トイレ		男女兼用トイレ	
材質	スチール		スチール		スチール	
仕上	SOP塗		SOP塗		SOP塗	
金物	引き手、引き戸錠		引き手、引き戸錠		レバーハンドル	
硝子			型板ガラス t=4.0		型板ガラス t=4.0	
見込						
備考	付属金物一式 スチール三方枠		付属金物一式		付属金物一式	

A	11.8 × 5.0 = 59.0㎡
L	(AW-1) (1.9 × 1.2) × 3 = 6.84㎡
必要面積	A × 1/20 = 2.95㎡ < 有効面積計 6.84㎡ ∴OK
V	(AW-1) (1.9 × 1.2) ÷ 2 × 3 = 3.42㎡
必要面積	A × 1/20 = 2.95㎡ < 有効面積計 3.42㎡ ∴OK
S	(AW-1) (1.9 × 0.4) ÷ 2 × 3 = 1.14㎡
必要面積	A × 1/50 = 1.18㎡ < 有効面積計 1.14㎡ ∴NG

※保管室(2)・・・排煙免除【告示1436-4-ニ(4)】
(居室) 100㎡以下、内装下地共不燃

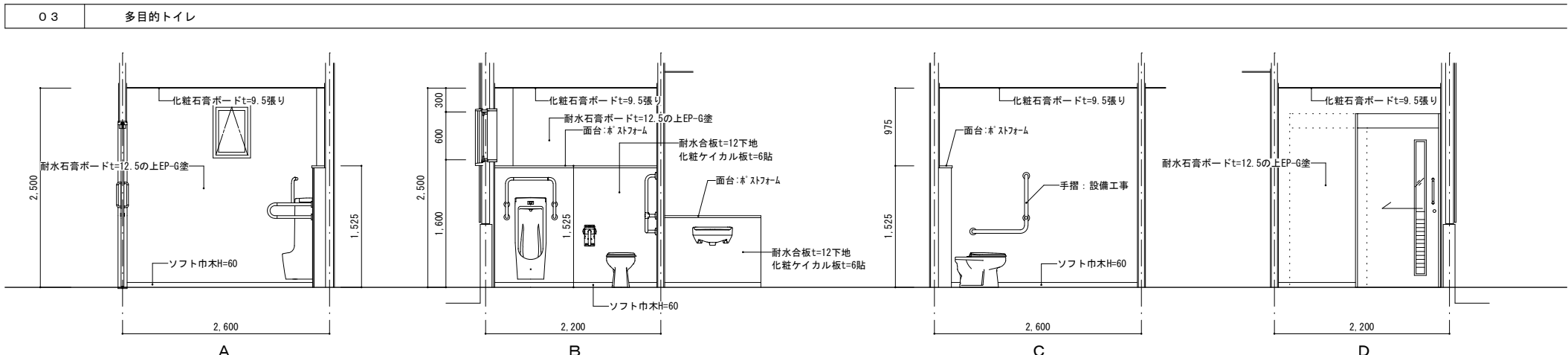
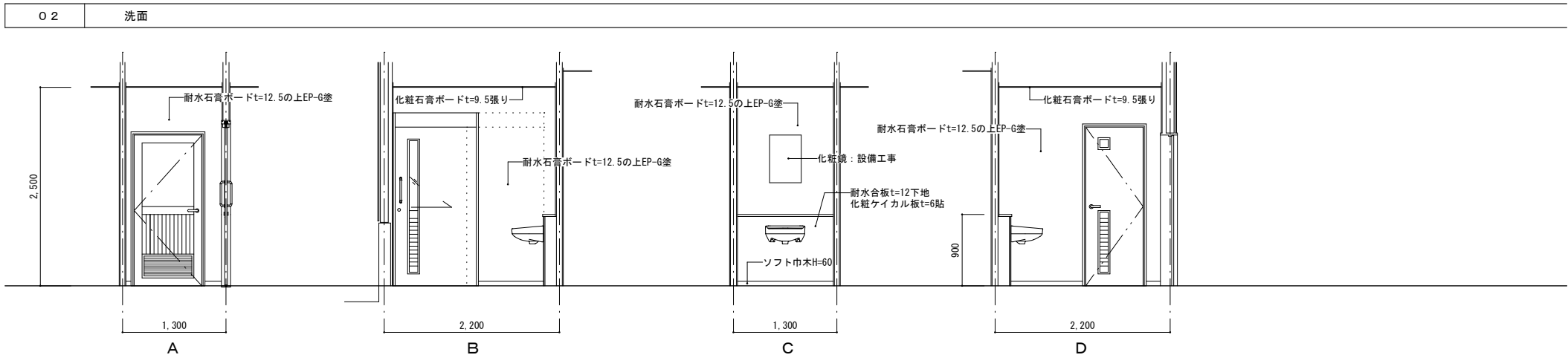
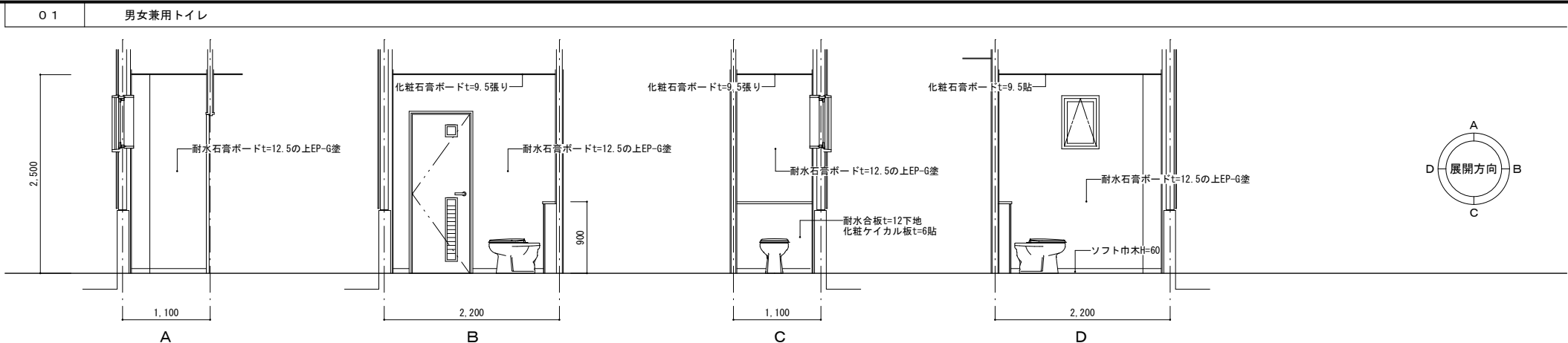


※消防有窓判定

AW 1 (1.9 × 1.2) × 8ヶ所 = 18.24㎡ (有効面積)

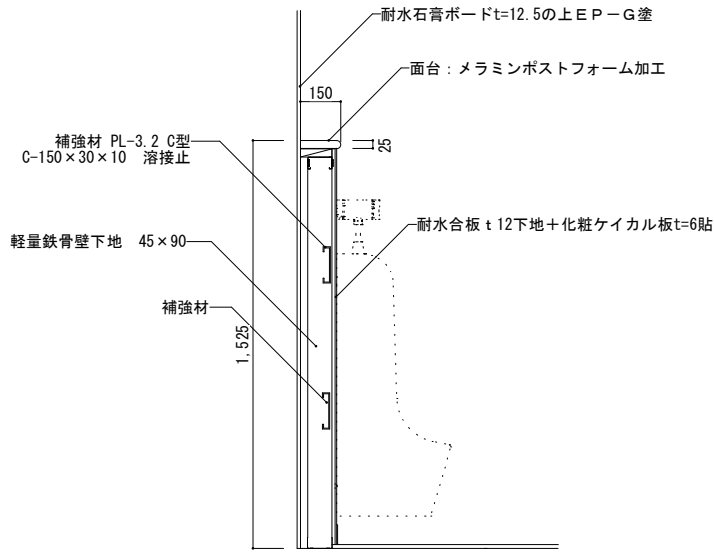
1階床面積 280㎡ × 1/30 = 9.4㎡ < 18.24㎡ (有効面積) ∴有窓階

※サッシ性能は、S-3、A-3、W-3 とする



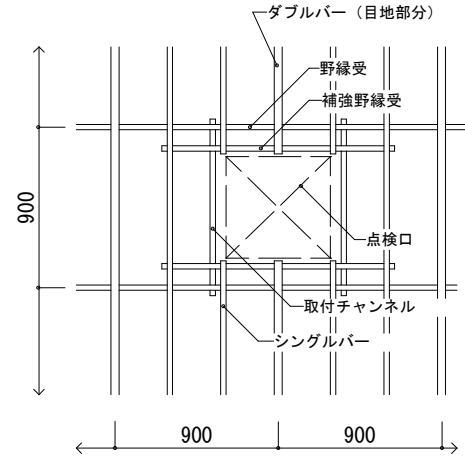
D-1 水回り面台

1 / 20

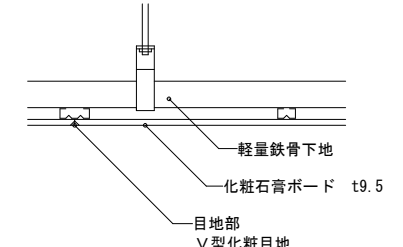


D-2 天井点検口取付開口補強

1 / 30

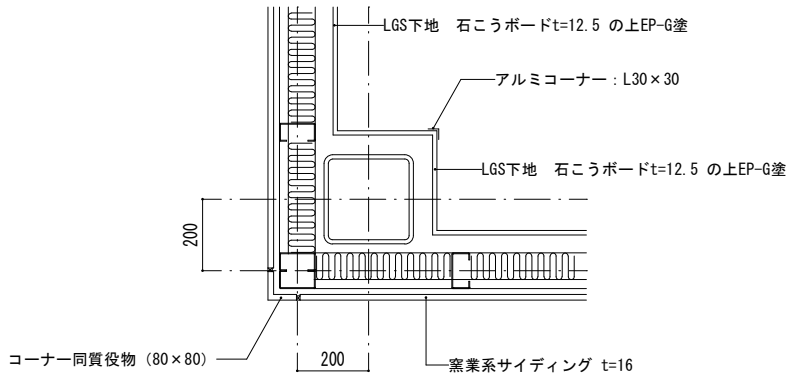


D-3 天井化粧石膏ボード貼



D-4 柱廻り納まり

1 / 15



D-5 ピクトサイン・誘導標識

1 / 10

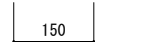
・多目的トイレ 1ヶ所



・男女兼用トイレ 1ヶ所



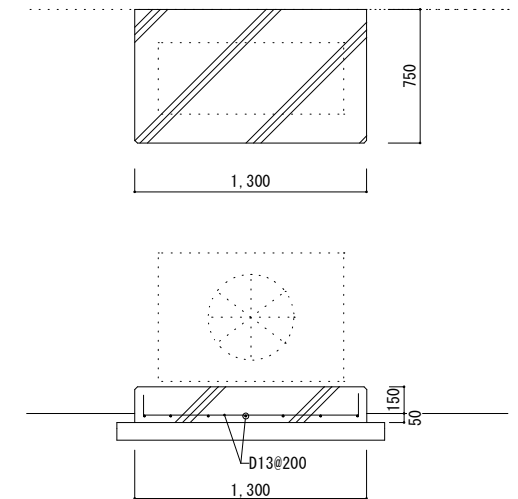
・平付型
・アクリル板 t2 カuttingシート貼



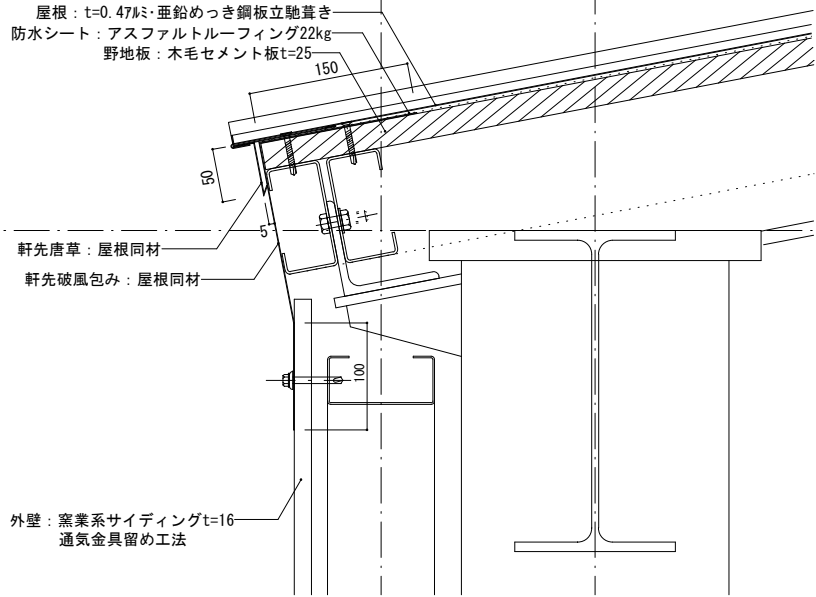
・誘導標識 2ヶ所 (市販品)



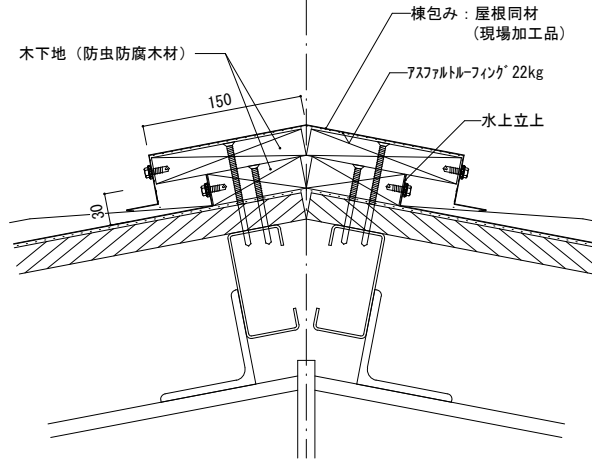
D-6 室外機置場



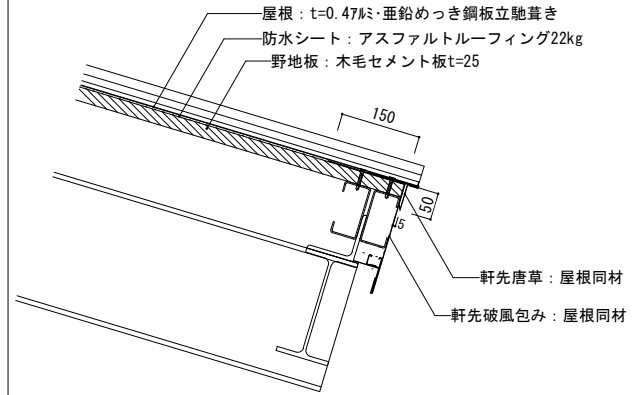
D-7 屋根軒先納まり 1/5



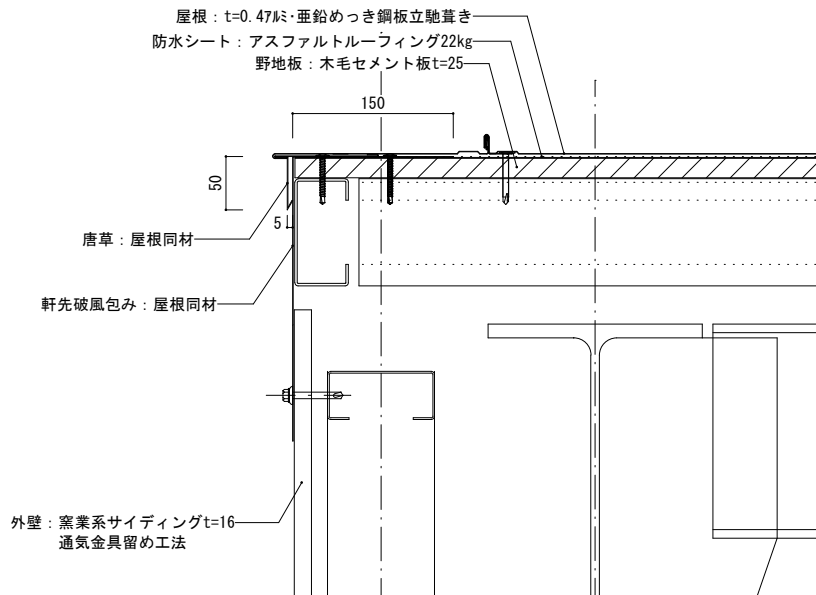
D-8 棟包み納まり 1/5



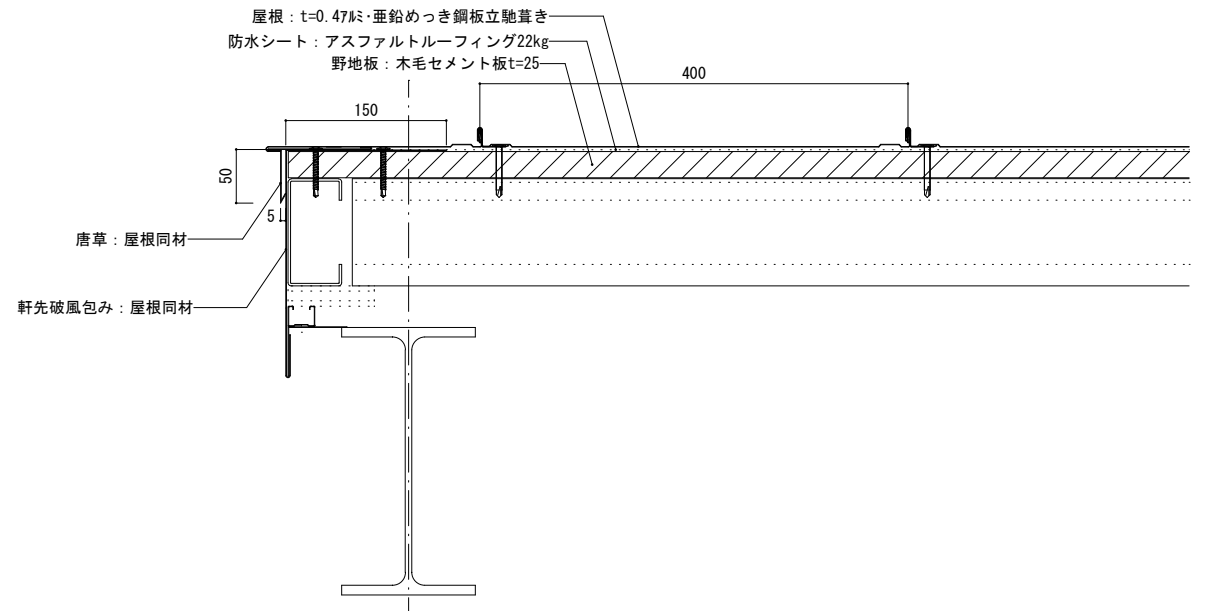
D-9 庇軒先納まり 1/10

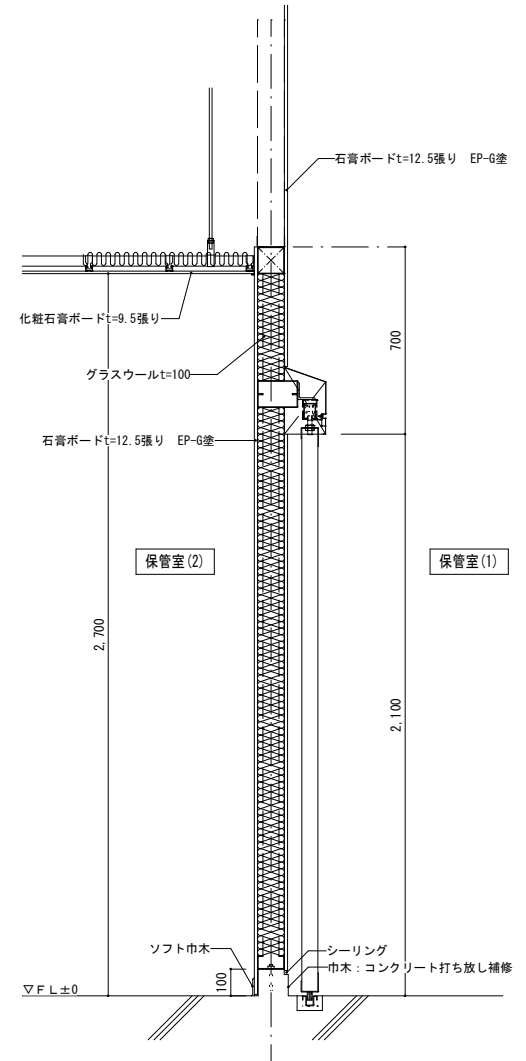
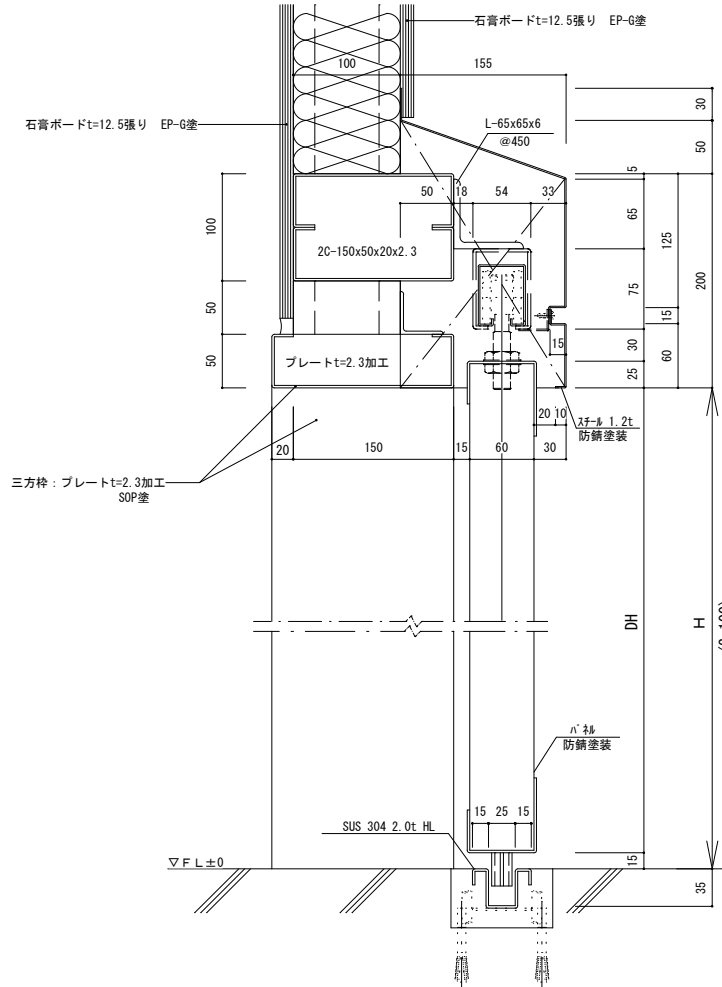
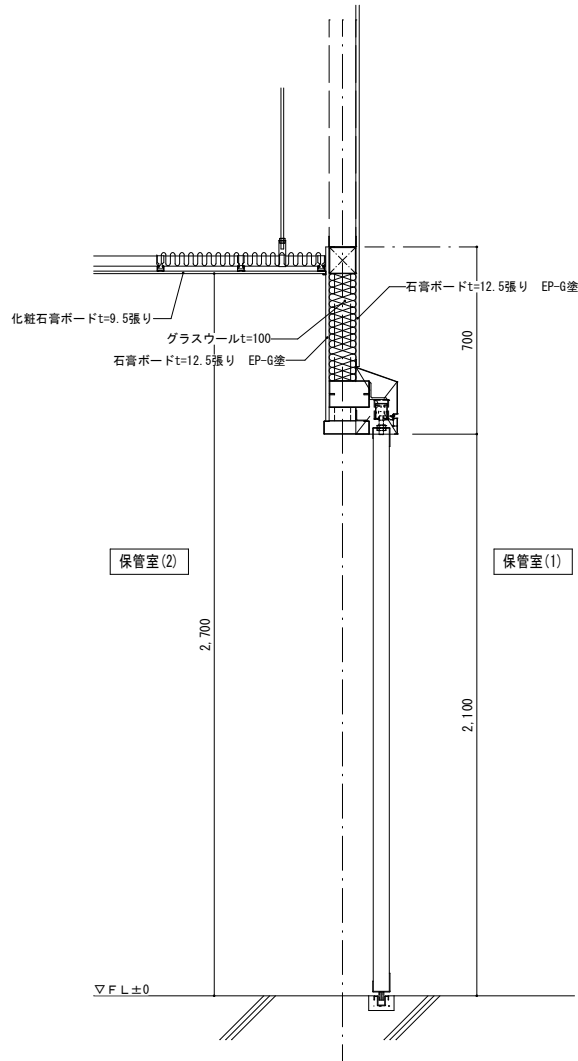


D-10 屋根ケラバ納まり 1/5



D-11 庇ケラバ納まり 1/5





両引きR1型
ハンガーローラー#3

株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者 製図	縮尺 A3: 1/20.1/5	ストックヤード建設工事	① B E M
			図面名称 雑詳細図(3)	NO. 21
				JOB NO.

鉄骨構造標準図(1)

構造詳細図該当項目

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- 構造設計仕様による
 - 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。但し、ベースプレートの厚さは除く
 - 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、制度及びその他の結果を添付する
- (2) 作業一般
- 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る
 - 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 - 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- 本編みに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
 - 高力ボルトの接合部の処理は量産などを産外に2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤錆び状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm以上である場合は、赤錆びは発生しないままでよい。
 - 高力ボルトの締め付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締め付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
- 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。
 - 溶接技能者
 - 溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き継ぎ、半年以上溶接に従事している者とする。
 - 溶接機器
 - (イ) 交流アーク溶接機 300A-500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
 - (ロ) アークエアークラウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
 - (ハ) サブマージアーク溶接機1式 (ヘ) 溶接棒乾燥機
 - 溶接方法
 - アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
 - セルフ(ガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアークラウジング(AAG)
 - 溶接姿勢
 - 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
 - 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
 - 仮付位置
 - 組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題と易い箇所は避ける
 - 仮付不良
 - 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
 - 溶接施工
 - エンドタブ
 - 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で開先形状のエンドタブを取り付ける
 - エンドタブの材質は、母材と同質とする
 - エンドタブの長さは、MC: 35mm以上、NGC・GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
 - プレス鋼板タブ、開先タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
 - 裏あて金
 - 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監督者の承認を得て変更することができる。
 - スカラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアルとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする
 - ノンスカラップ工法
 - 裏はつり
 - 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を助行し、部材に確認マークをつける
 - 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面をいためない様に、養生を行う
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2. 溶接規準図

(注) F:余盛 G:ノット開隔 R:フェース S:脚長 (単位mm)

(1) 隅肉溶接

(2) 部分溶込み溶接(使用箇所)に注意

(3) 完全溶込み溶接(平継手 T形継手)

(4) T形突合せ継手余盛

(5) AAG()内はGCでF・Hの場合

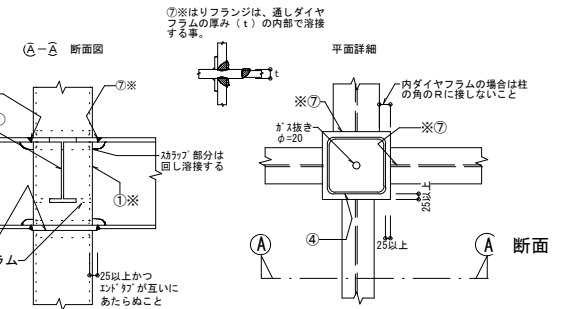
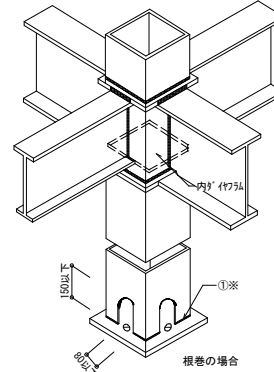
(6) 0 < f ≤ 3.0mm (但し、t ≥ 15mmのとき4mmとする) t/2/4 ≤ a ≤ 10mm (平継手で板厚が異なるとき)

(7) 0 < f ≤ 3.0mm (但し、t ≥ 15mmのとき4mmとする)

(8) フレア溶接

・溶接記号番号を○に記入のこと

・BOX型(通しダイヤフラムの場合)



①※ t > 16mmの場合の溶接は、③~⑤とする。

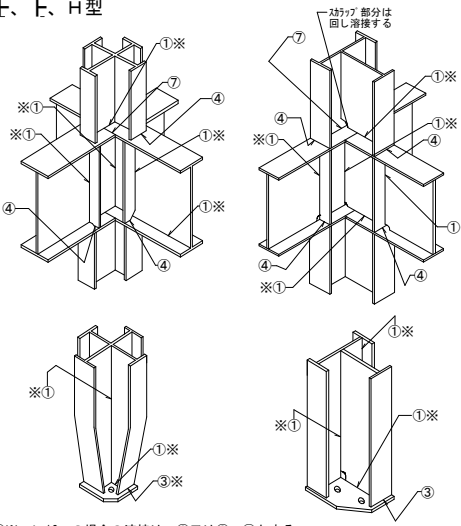
・柱が途中で折れる場合
・梁成が異なる場合

①※ t > 16mmの場合の溶接は、②又は③~⑤とする。

鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス温度 (°C)
400 N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	JIS Z 3312		
	JIS Z 3315		
490 N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	JIS Z 3312		
	JIS Z 3315		

七、E、H型



①※ t > 16mmの場合の溶接は、②又は③~⑤とする。
③※ t ≥ 19mmの場合の溶接は、設計者に確認する事。

鉄骨構造標準図(2)

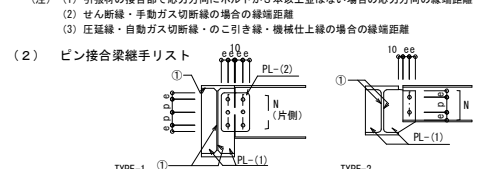
構造詳細図該当項目

3. 継手規準図、その他

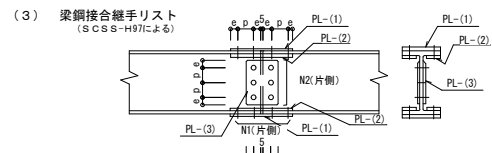
(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P)

呼び径(d)	ボルト穴径	最小継ぎ距離(φ)				ピッチ(P)	
		(1)	(2)	(3)	(4)	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	28	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70
M16	21(16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
M20	25(20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
M22	27(22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
M24	29(24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
M27	32		49	36			
M30	35		54	40			
M34以上	呼び径+5		9d/5	4d/3			

(注) (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の継ぎ距離
 (2) せん断線・手動ガス切断線の継ぎ距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・の引き線・機械仕上線の継ぎ距離

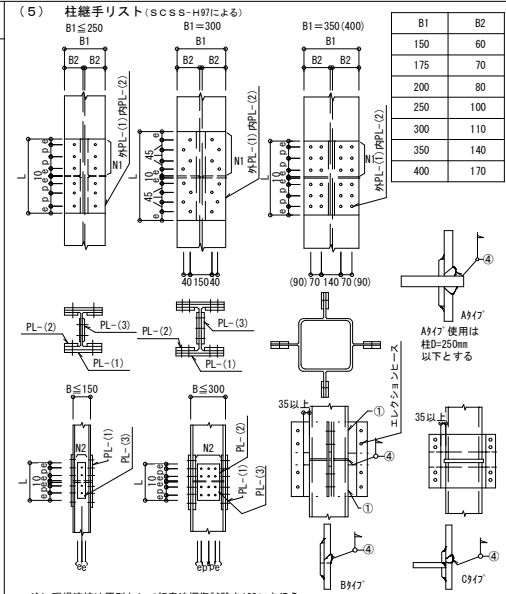
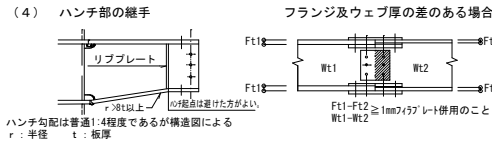


符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
鉄骨部材リストによる					



(注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)
鉄骨部材リストによる					



符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)
鉄骨部材リストによる					

(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする...JIS5540...1982/5541・5542...2003)

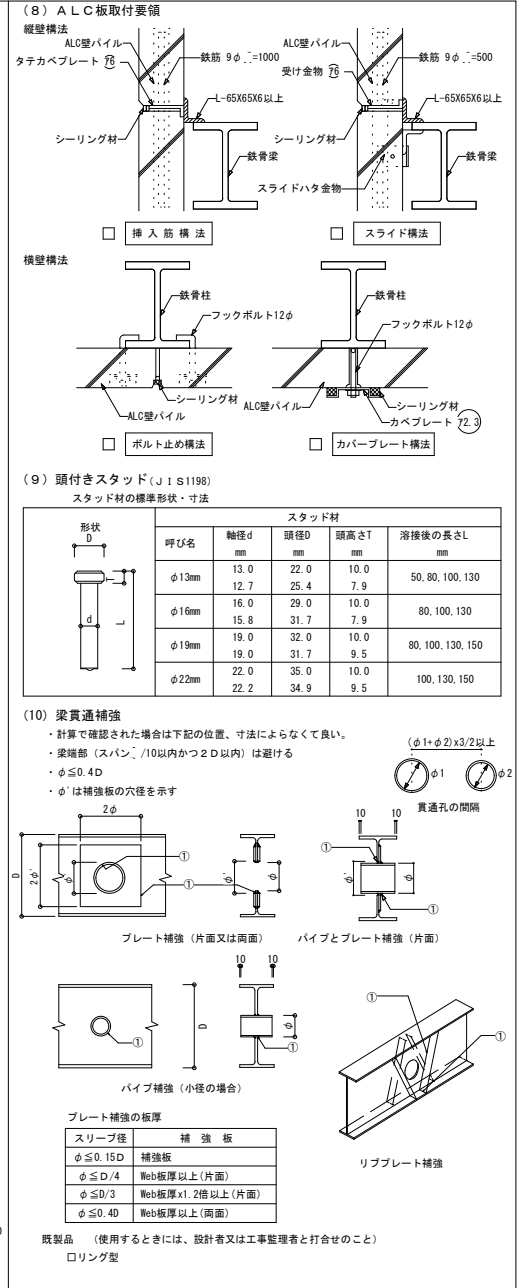
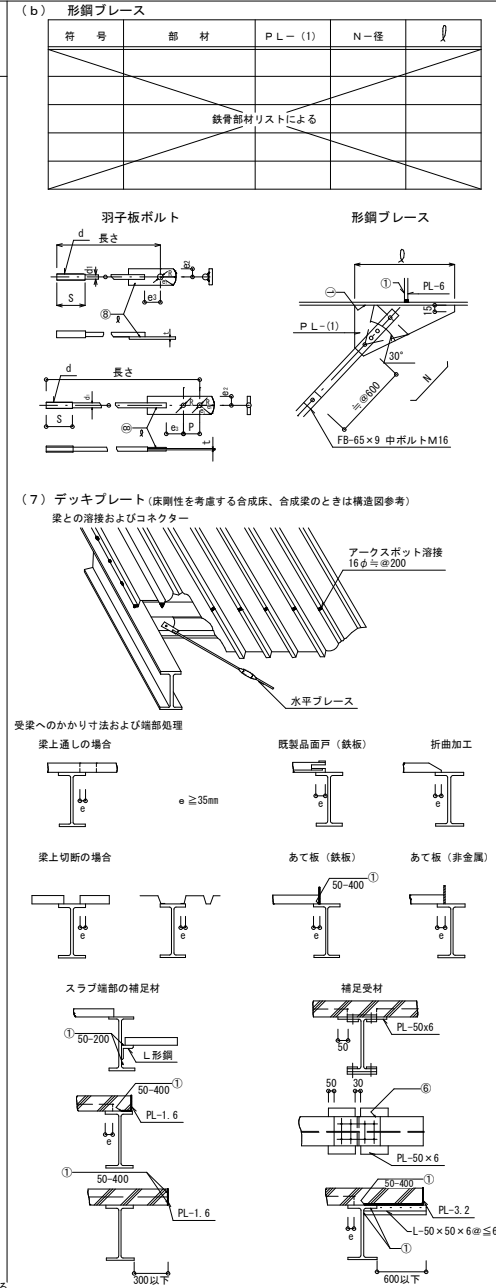
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び(d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最大 10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小 10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ	S 100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径	R 13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
許容差	-0.5mm						
はしあき(最小)	(2) e1	35	40	45	50	55	50
	(1) e2	22	28	28	34	34	38
切板製	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9
平鋼製	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9
	へりあき(最小)	(1) e2	19	25	25	32.5	37.5
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)	e3	47	52	59	66	73	70
溶接長さ(最小)	ℓ	40	50	55	60	75	85

(2) 種類 JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中8 10.9

ねじの呼び	M12	M16	M20	M22	M20
本数	1	1	1	1	2

(注) (1) e1, e2が確保されれば形状は自由でよい
 (2) 羽子板とガスケットの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(圧支)接合とする



鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

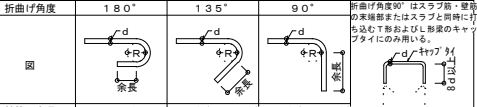
構造詳細図該当項目

1. 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号
 - d...異形棒筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の成 R...直徑
 - φ...間隔 r...半径 e...中心線 g...部材間隔の内距離 h₀...部材間の内高さ
 - S T...あばら筋 HOOP...帯筋 S, HOOP...補強帯筋 φ...直徑または丸鋼

2. 鉄筋加工, かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



折曲げ角度	180°	135°	90°
鉄筋の長さ	4d以上	6d以上(※4d以上) 3d以上(※4d以上)	3d以上
折曲げ内寸法Rは、	S R235~S D345の径16およびD16以下は3d以上、 S D295~S D345のD19~D38は4d以上、D41およびD39は15d以上。 スラブ筋、壁筋には丸鋼は使用しない。		

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

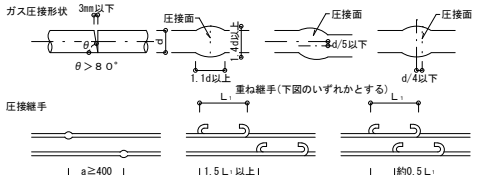
鉄筋の呼び名	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内寸法(L)
帯筋	S R235, S R295	D16以下	3d以上
あばら筋	S D295 A, S D295 B	D16以下	3d以上
スパイラル筋	S D345	D19以上	4d以上
上記以外の鉄筋	S R235, S D295 A, S D295 B, S D345	D16以下	4d以上
		D19~D25	6d以上
		D29~D41	8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継ぎ手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継ぎ手の長さ(L)
		一般(L)	下ば筋(スラブ)	
S R235	21, 24	35dフックつき	小梁 5cmフック	35dフックつき
	18以下	45dフックつき	つき	45dフックつき
S D295 A S D295 B S D345	21~36	35dまたは25dフックつき	つき	40dまたは35dフックつき
	18以下	40dまたは30dフックつき	25dまたは10dかつ15cm以上	45dまたは40dフックつき
S R235	21~36	27dまたは25dフックつき	つき	30dフックつき
	18以下	40dまたは30dフックつき	つき	45dまたは35dフックつき

注) 許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は40dとする。

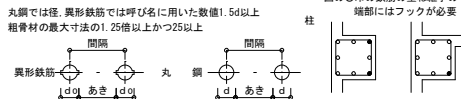
- 継手**のフックは、定着及び重ね継ぎ手の長さに含まない。
- 継手位置は、応力小さい位置に設けることを原則とする
 - 直徑の異なる鉄筋の重ね継ぎ手は、細い方の鉄筋の継ぎ手長とする
 - D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継ぎ手としてはならない
 - 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



かぶり厚さ(単位: mm)	部		設計かぶり厚さ(単位: mm)
	部	位	
ひびわれ防止用自動など鉄筋のかぶり厚さが総論的に減少する箇所については最もかぶり厚さを確保する。	土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	30 40 30(20)
	土に接する部分	柱・梁 耐力壁 土間	40 50 40(30)
	土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁 基礎	50 40 70

- 注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとする事ができる。
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとする事ができる。
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとする事ができる。
 (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 (5) ()内は仕上げがある場合。
 (6) 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

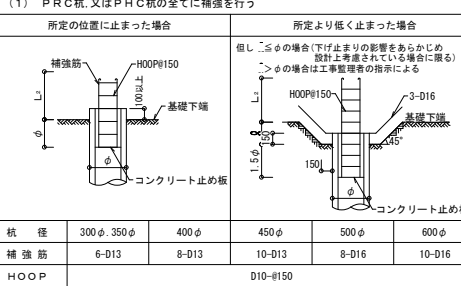
(5) 鉄筋のあき



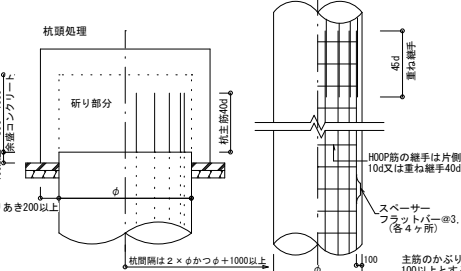
- (6) 鉄筋のフック(※fに示す鉄筋の末端部にはフックをつける。) 梁
- 丸鋼
 - あばら筋、帯筋
 - 煙突の鉄筋
 - 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
 - 単独梁の下端部
 - その他、本配筋標準図に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。)

(1) PRC杭, 又はPHC杭の全てに補強を行う

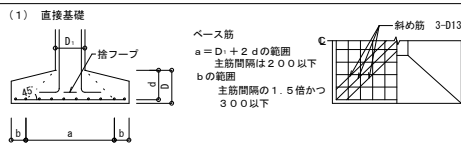


(2) 現場打ちコンクリート杭

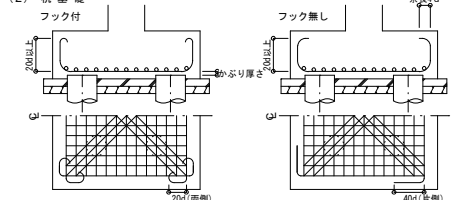


4. 基礎

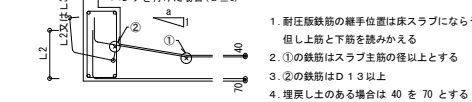
(1) 直接基礎



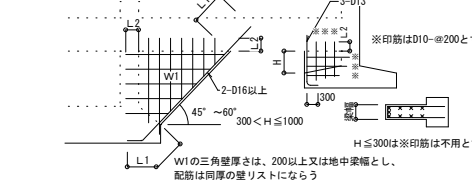
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

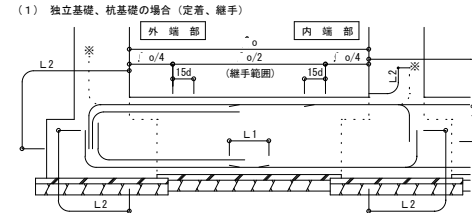


(4) 基礎接合部の補強

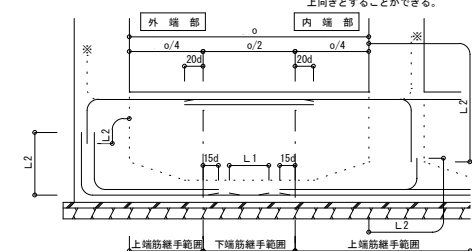


5. 地中梁

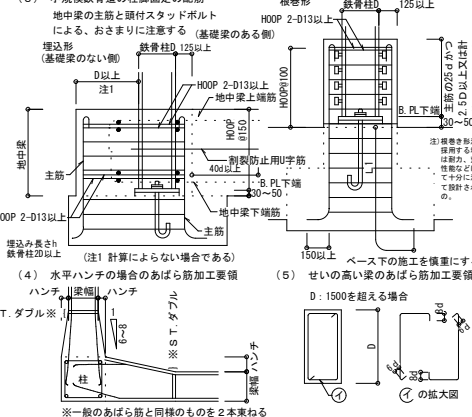
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

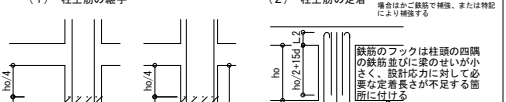


(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

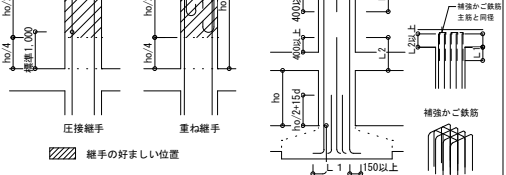


6. 柱

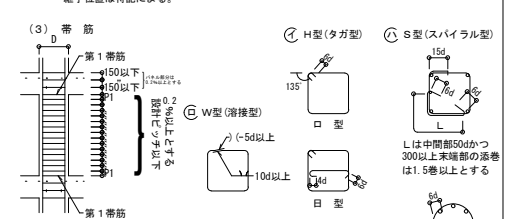
(1) 柱主筋の継手



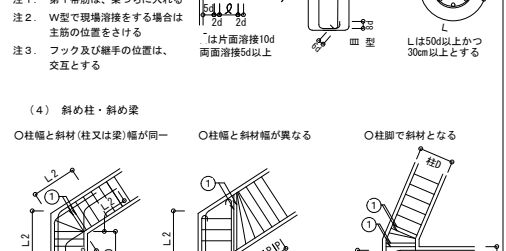
(2) 柱主筋の定着



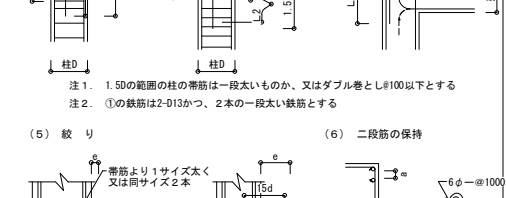
(3) 帯筋



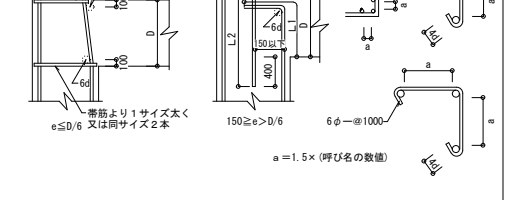
(4) 斜め柱・斜め梁



(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

構造詳細図該当項目

7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

大梁

小梁の定着

片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置

(4) あばら筋の型

(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	D<600 不要
	600≦D<900 2-D10(φ) 1段
	900≦D<1200 4-D10(φ) 2段
	1200≦D D10(φ)≦300以内
幅止め筋	D10(φ)≦1000以内で割り付ける

8. 床版

(1) 定着および継手

片持床スラブ

一般床スラブ

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

(4) 床版開口部の補強

(5) 床版差違

(6) 土間コンクリート

(7) 釜場

(8) 打抜き補強

床版厚さD	周囲	斜め
D≦150	各2-D13	各1-D13
150<D≦200	各2-D13	各2-D13
200<D≦300	各2-D19	各2-D16

9. 壁

(1) 定着

梁に

柱に(平面図)

床に(非耐力壁とスラブが取り合う場合)

(2) スリット部

(3) 手摺、パラベット

(4) コンクリートブロック横壁

注) $h \leq 25$ かつ 3500 以下とする。但し直交方向 25 t 以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) h はコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、 $200 \leq h \leq 400$
注) 継手部は必ずモルタルを充填すること

(2) 梁

- 補強筋は、梁主筋の1段薄し径(D16以上)とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同じピッチとする。
- 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- D≦400の場合は補強筋を3本とする。
- φは100~200程度。
- 地下増打コンクリートの場合も上増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

梁端部(スパン/10以内かつ2D以内)は避ける

(2) 鉄筋標準配筋 但し、 $\phi \leq D/3$ とする

80≦φ≦100	100<φ≦150	150<φ≦250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13)
縦筋 ST 2-D13	縦筋 ST 2-D13-φ50	縦筋 ST 2-D13-φ50
	横筋 2-(2-D13)	横筋 ST 2-D13-φ50
	縦筋 ST 2-D13-φ50	縦筋 ST 2-D13-φ50

φ>250 孔補強の有効範囲と定着長さのとり方

注) 梁幅が400を超える場合は補強筋でD13はD16又は、2-D13は3-D13と、各々読みかえる。

φ: スターアップ補強範囲

12. 増築予定

(1) 柱、梁 (2) 地中梁 (3) 床版、壁

注) 増築予定とは事前設計、(増築工事監理と打ち合わせのこと)

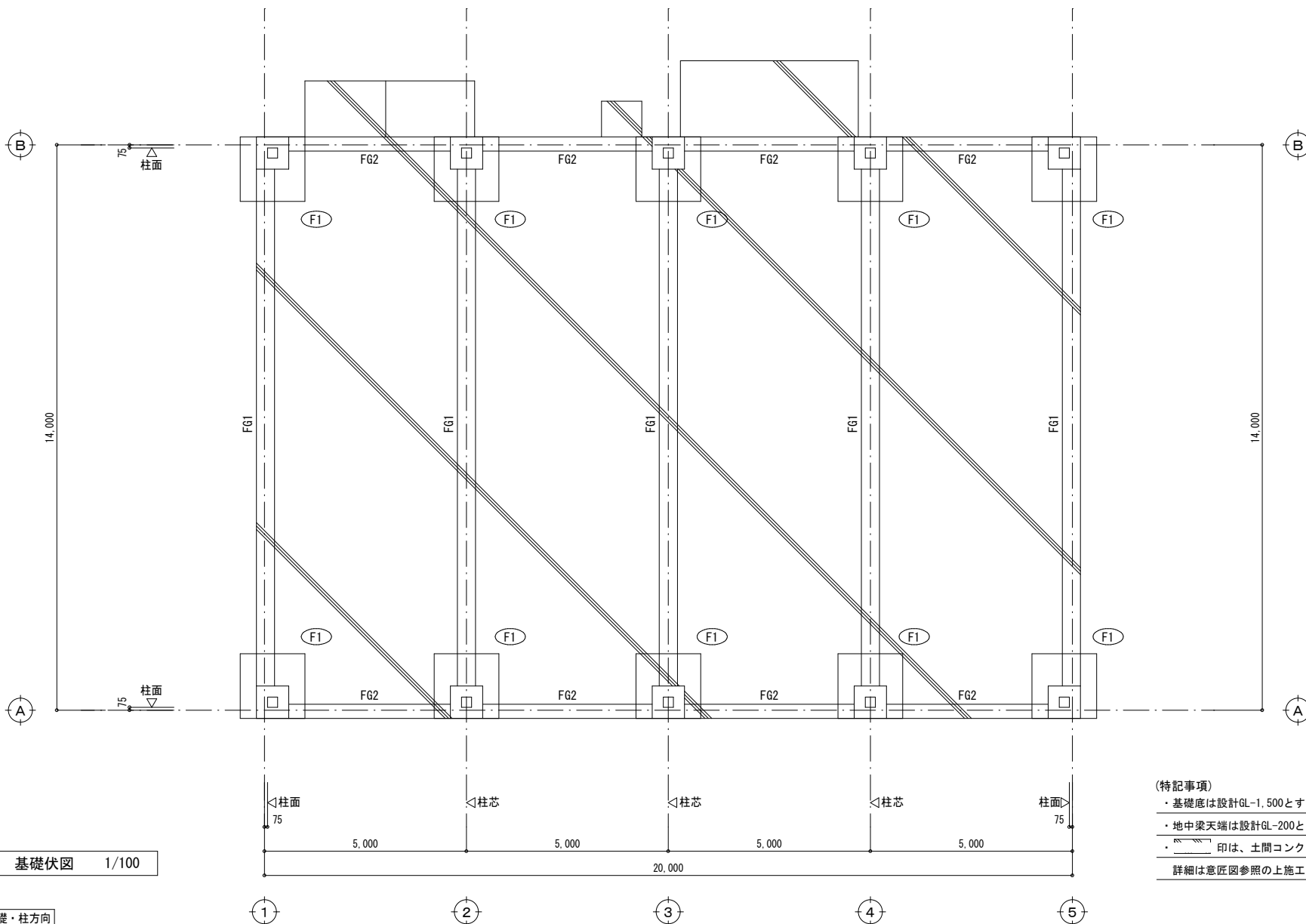
10. 柱、梁増打コンクリート補強

(1) 柱

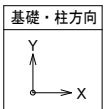
ハッチ部分の面積A cm²


A<500	500≦A<1000	1000≦A<1500
3-D16	4-D16	6-D16

注) 柱と同径、同じピッチとする。



基礎伏図 1/100

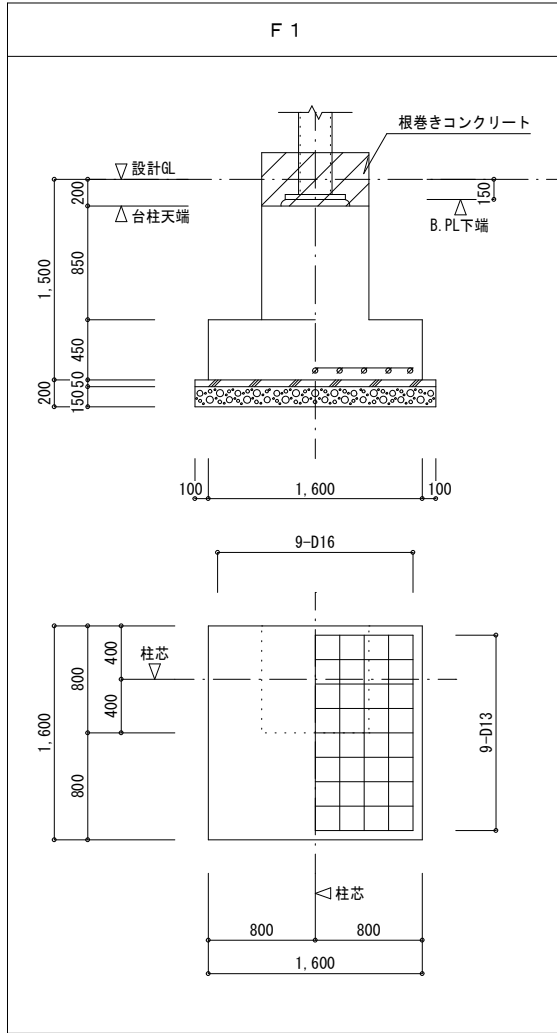


- (特記事項)
- ・基礎底は設計GL-1,500とする
 - ・地中梁天端は設計GL-200とする
 - ・印は、土間コンクリートを示す
 - ・詳細は意匠図参照の上施工図による

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
 構造設計一級建築士 第9035号

 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3 : 1/100	ストックヤード建設工事	A (S) E M NO. 06 <small>(登録番号 第262818号)</small> JOB NO.
			基礎伏図	

基礎リスト 1/40

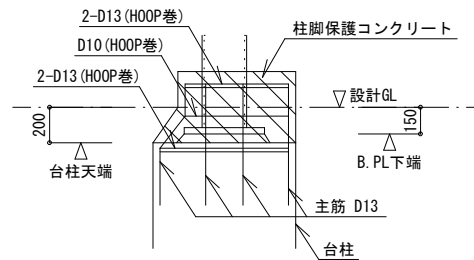


土間コンクリート配筋図

台柱, 柱脚リスト 1/30

特記事項
 ・特記無き限りベースプレートについては、SN490Cとする
 ・特記無き限りアンカーボルトについては、ABR490とする

符号	C 2 5
主材	□ - 250 × 250 × 12 (BCR295)
柱脚	
Base PL	PL-36 × 450 × 450
A. BOLT	8-M30 (定着長 L=690) (二重ナット締め) 定着板(規格品100×100)
台柱	
主筋	16-D22
HOOP	D10@100

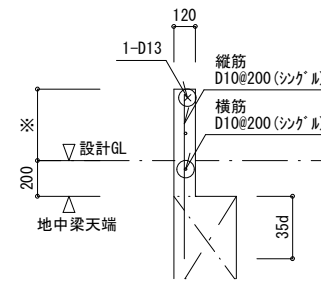


柱脚保護コンクリート配筋図 1/30

地中梁リスト 1/30

・巾止メ筋はD10@1000以下とする

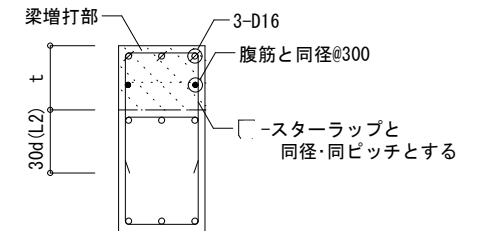
符号	FG 1	FG 2
位置	全断面	全断面
▽設計GL		
断面		
B × D	450 × 1,200	350 × 900
上端筋	5-D25	4-D22
下端筋	5-D25	4-D22
S T P	□ -D13@200	□ -D10@200
腹筋	4-D10	2-D10



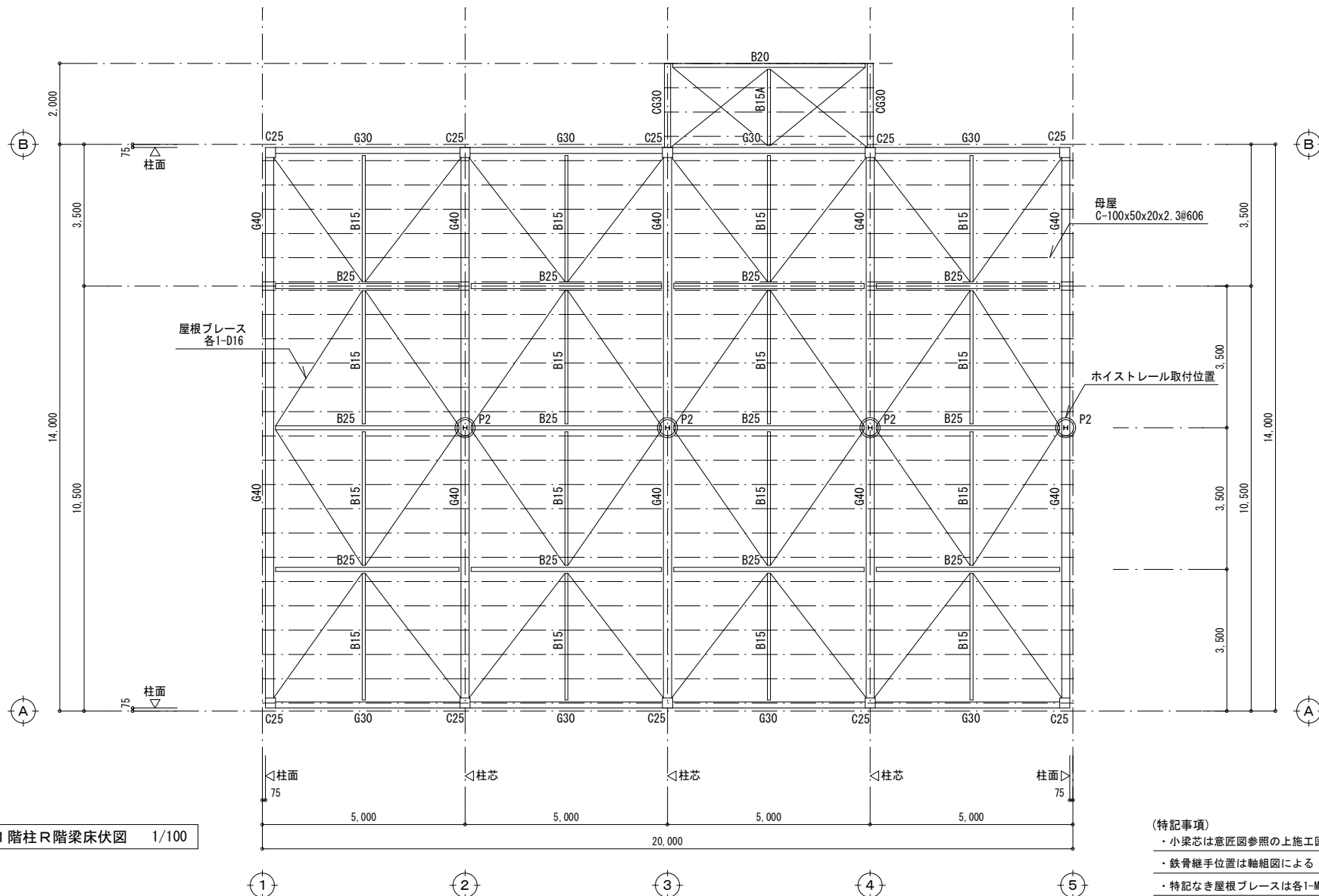
腰壁部配筋図 1/30

・※印寸法は意匠図参照の上施工図による。

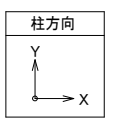
梁増打コンクリート補強筋要領図



一級建築士 第329649号 竹田 和彦
 構造設計一級建築士 第9035号



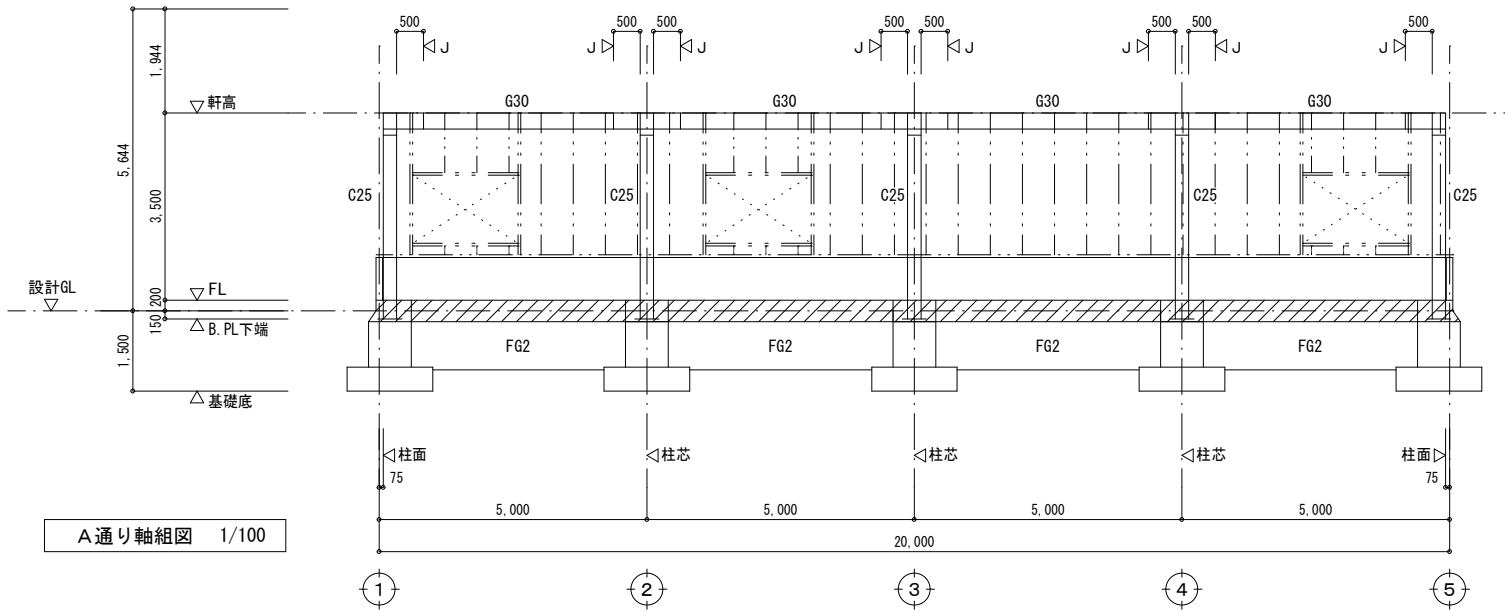
1階柱R階梁床伏図 1/100




- (特記事項)
- ・小梁芯は意匠図参照の上施工図による
 - ・鉄骨継手位置は軸組図による
 - ・特記なき屋根プレースは各1-M16とする

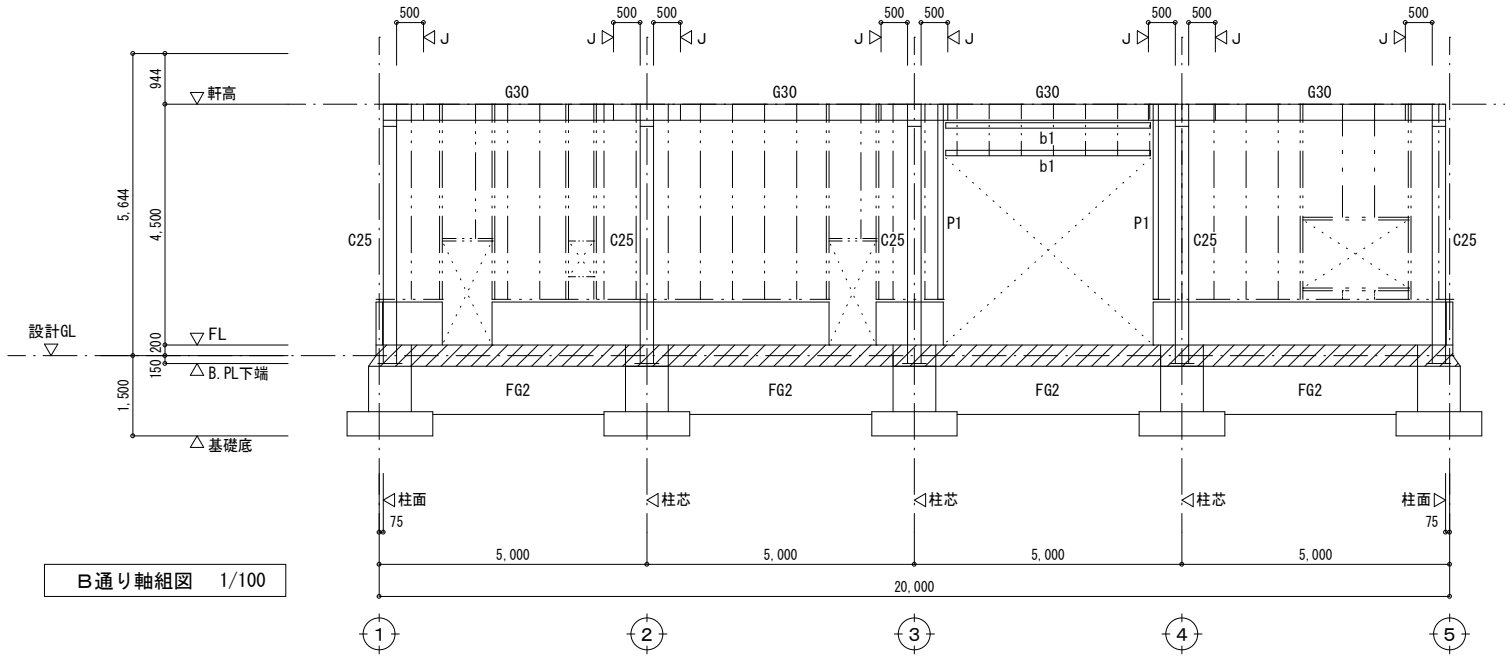
一級建築士 第329649号 竹田 和彦
 構造設計一級建築士 第9035号

 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3 : 1/100	ストックヤード建設工事	一級建築士 日高雅人 (登録番号 第262818号)
			1階柱R階梁床伏図	A (S) E M NO. 08 JOB NO.



A通り軸組図 1/100

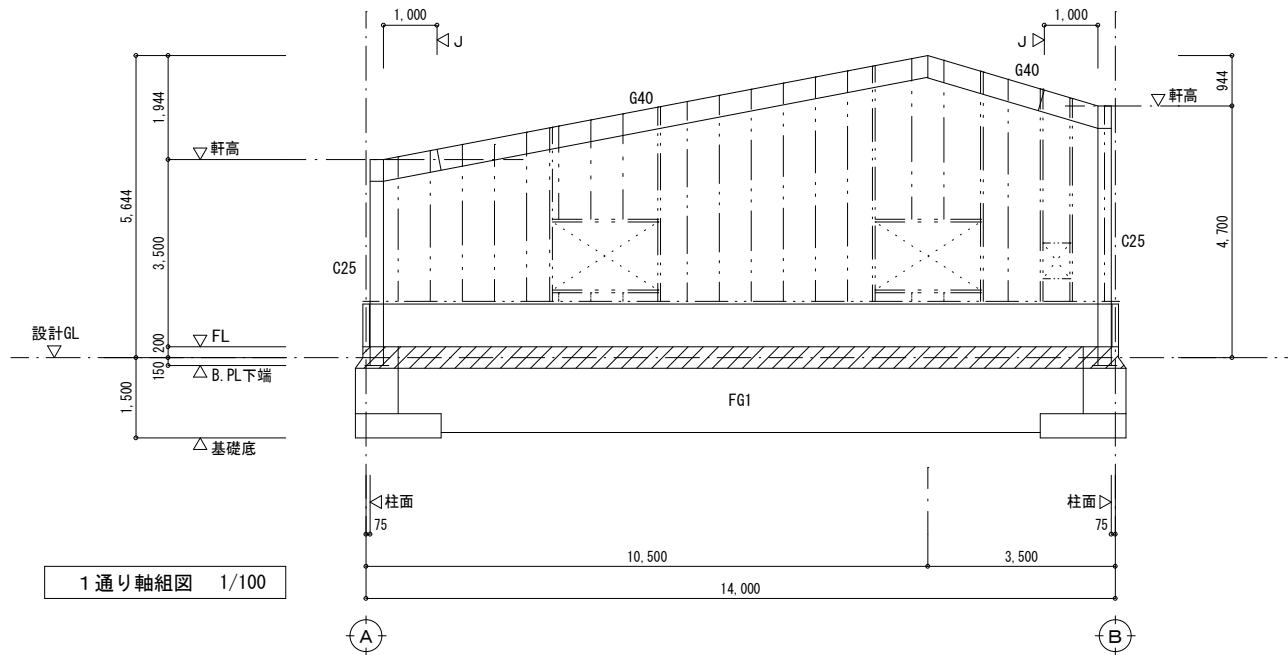
- (特記事項)
- ・縦胴縁 C-100×50×20×2.3@600とする
 - ・特記無き限り 〃は、2C-100×50×20×2.3 を示す
 - ・胴縁割付けは施工図による
 - ・ 印部は、増打ち部を示す
 - ・特記無き限り基礎符号はF 1とする



B通り軸組図 1/100


一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

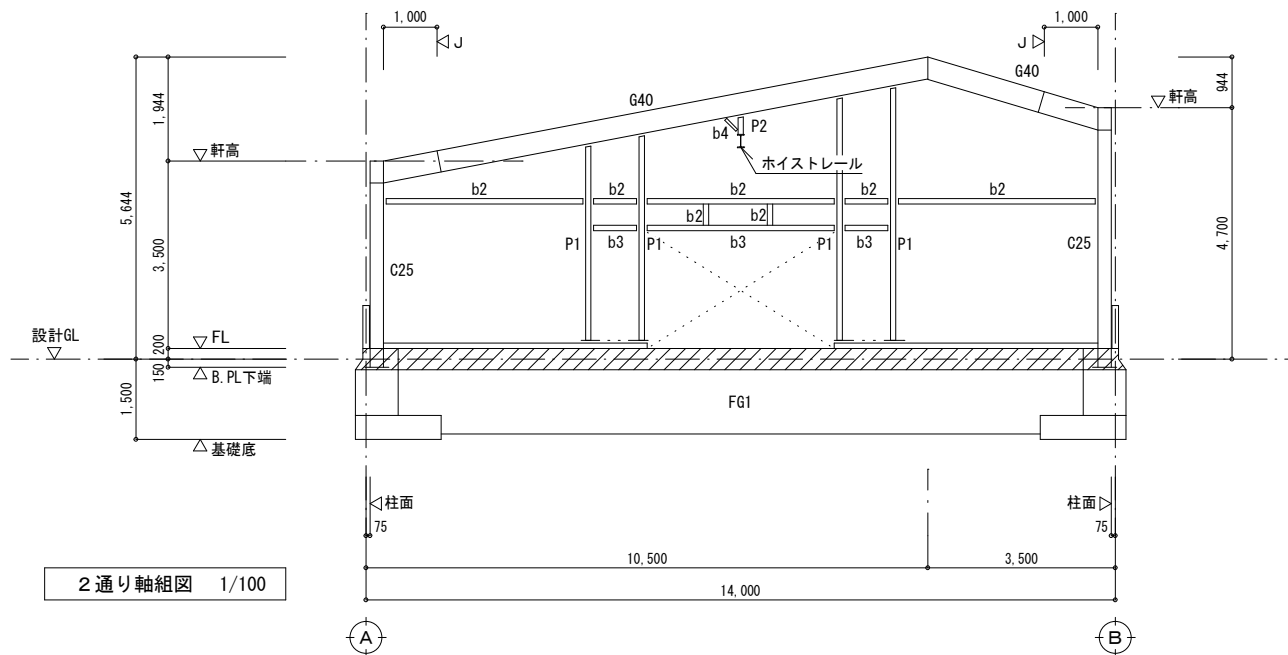
 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3 : 1/100	ストックヤード建設工事	A (S) E M NO. 09 (登録番号 第262818号) JOB NO.



1 通り軸組図 1/100

(特記事項)

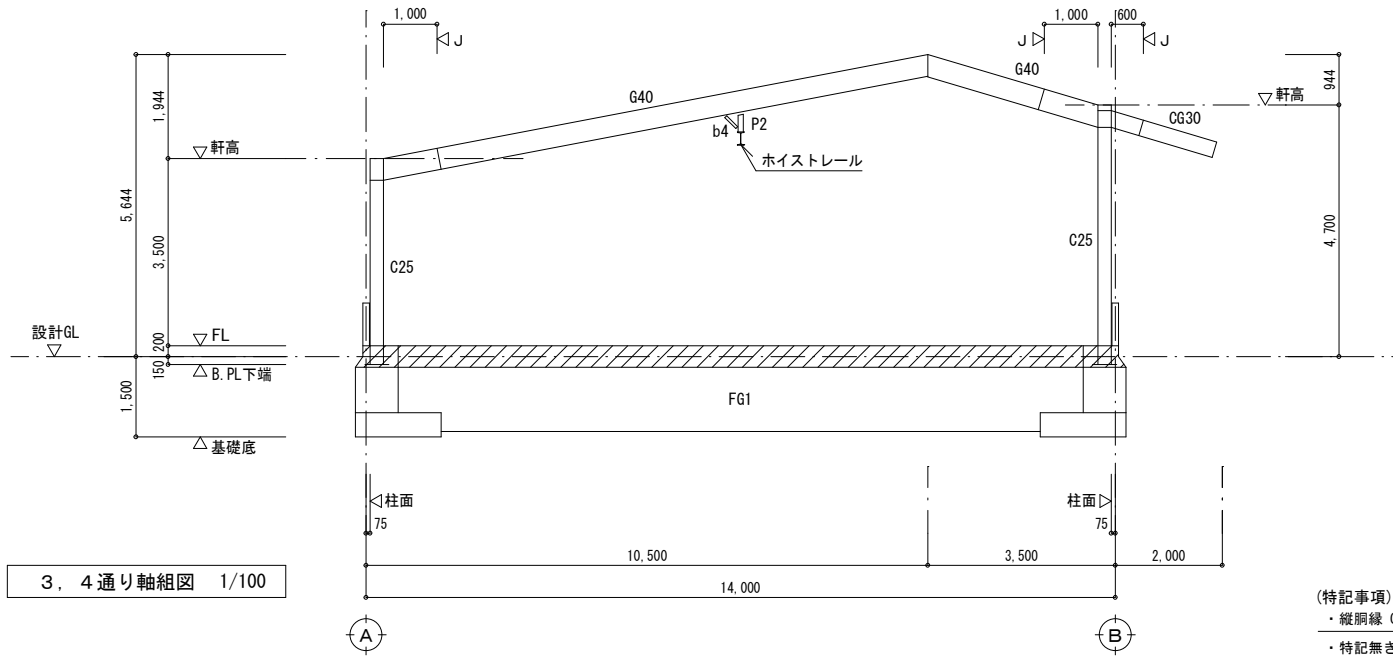
- ・縦胴縁 C-100×50×20×2.3@600とする
- ・特記無き限り 〇は、2C-100×50×20×2.3 を示す
- ・胴縁割付けは施工図による
- ・ 印部は、増打ち部を示す
- ・特記無き限り基礎符号は F 1 とする



2 通り軸組図 1/100

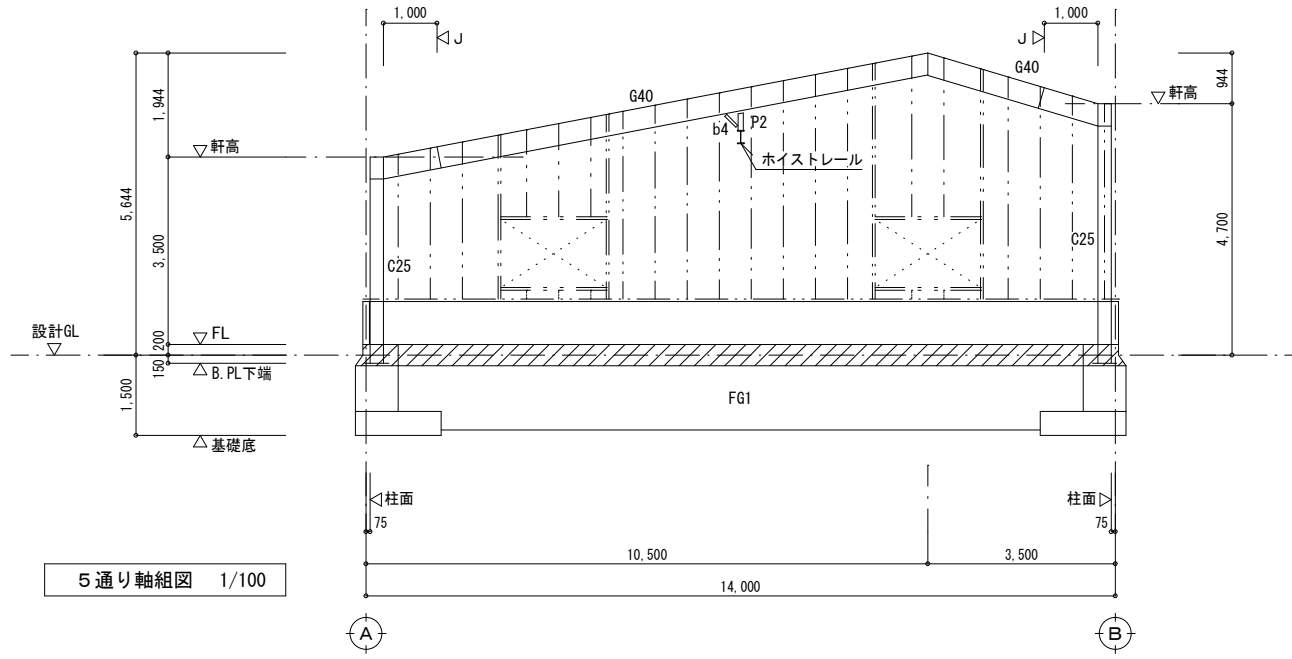
一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3 : 1/100	ストックヤード建設工事	A (S) E M
			図面名称	NO.
			軸組図 (2)	10
				JOB NO.



3, 4通り軸組図 1/100

- (特記事項)
- ・縦胴縁 C-100×50×20×2.3@600とする
 - ・特記無き限り は、2C-100×50×20×2.3 を示す
 - ・胴縁割付けは施工図による
 - ・印部は、増打ち部を示す
 - ・特記無き限り基礎符号はF1とする



5通り軸組図 1/100

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
 構造設計一級建築士 第9035号

 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3 : 1/100	ストックヤード建設工事	A (S) E M
			軸組図 (3)	NO. 11
				JOB NO.

鉄骨部材リスト

・ボルトピッチ (P)、ヘリあき (e) (標準) (単位: mm)

軸径 d	M12	M16	M20	M22	M24
p	50	60	60	70	70
e	30	40	40	45	45
ボルト穴径	13.0	17.0	21.5	23.5	25.5

(特記事項)

- 1) ダイヤフラムプレートは 取付く梁のフランジと食違いないように厚くすること。
- 2) ダイヤフラムの材質は、SN490Cとする。

柱リスト

符号	階	使用部材	備考
C25	1階	□-250×250×12	BCR295

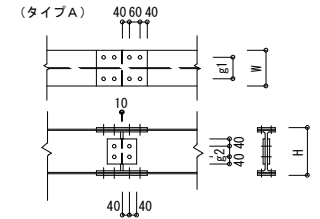
大梁リスト

使用鋼材 SS400 H.T.B S10T

外部に使用している部材は全て溶融亜鉛メッキ処理とし、H.B.T F8Tを使用すること

符号	H型鋼サイズ H×B×t1×t2	継手						
		タイプ	フランジ		ウェブ		g1	g2
			添板	H.T.B	添板	H.T.B		
G40	H-400×200×8×13	A	外 PL-9×200×410 内 2PL-9×80×410	3×2-M20	2PL-9×260×170	4×1-M20	120	60
G30	H-300×150×6.5×9	A	外 PL-9×150×290 内 2PL-9×60×290	2×2-M20	2PL-6×200×170	2×1-M20	90	120
CG30 <F8T>	H-300×150×6.5×9	A	外 PL-9×150×290 内 2PL-9×60×290	2×2-M20	2PL-6×200×290	2×2-M20	90	120

継手形状



片持梁リスト

使用鋼材 SS400

外部に使用している部材は全て溶融亜鉛メッキ処理とし、H.B.T F8Tを使用すること

符号	H型鋼サイズ H×B×t1×t2	備考
CG30	H-300×150×6.5×9	工場溶接 (継手は大梁リスト参照)

その他部材リスト

特記事項

- 1) 特記無き限り材種はSS400とする。

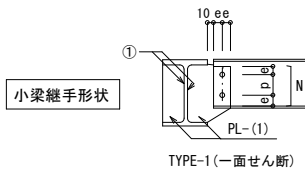
符号	使用部材	備考
母屋	C-100×50×20×2.3@606 (SSC400)	ピースPL-4.5 中ボルト 2-M12
屋根ブレース	1-M16 (ターンバックル付)	G.PL-9 H.T.B 1-M16
縦胴縁	C-100×50×20×2.3@600 (SSC400)	ピースPL-4.5 中ボルト 2-M12
開口補強	2C-100×50×20×2.3 (SSC400)	ピースPL-4.5 中ボルト 2-M12
P1	□-100×100×6 (STKR400)	G.PL-6 H.T.B 2-M16
P2 (レール吊材)	H-100×100×6×8	G.PL-6 H.T.B 2-M16
b1	□-100×100×6 (STKR400)	G.PL-6 H.T.B 2-M16
b2	□-100×100×4 (STKR400)	G.PL-6 H.T.B 2-M16
b3	2C-150×50×20×3.2 (横使い) (SSC400)	ピースPL-4.5 中ボルト 2-M12
b4	L-50×50×6	G.PL-6 中ボルト 2-M12
ホイストレール	I-250×125×7.5×12.5	G.PL-6 H.T.B 2-M20

小梁リスト

使用鋼材 SS400 H.T.B S10T

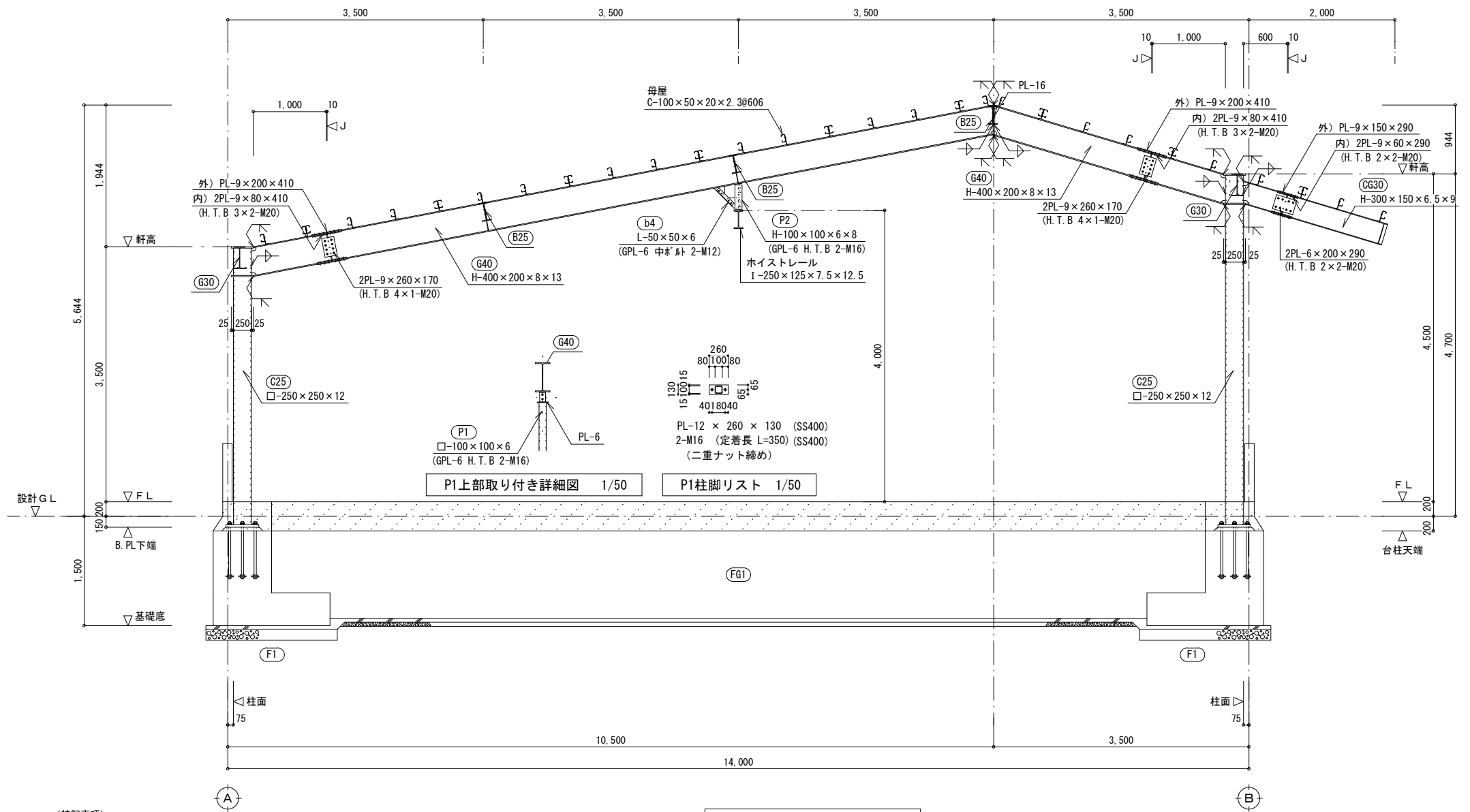
外部に使用している部材は全て溶融亜鉛メッキ処理とし、H.B.T F8Tを使用すること

符号	タイプ	使用部材	PL-(1)	N-径
B25	TYPE-1	H-250×125×6×9	PL-6	3-M20
B20	TYPE-1	H-200×100×5.5×8	PL-6	2-M16
B15	TYPE-1	H-150×75×5×7	PL-6	2-M20
B15A	TYPE-1	H-150×75×5×7	PL-6	2-M16



一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

承認	作成年月日	工事名称	区分
担当責任者	製図	ストックヤード建設工事	A (S) E M
鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	縮尺	図面名称	NO. 12
	A3: No scale	鉄骨部材リスト	JOB NO.

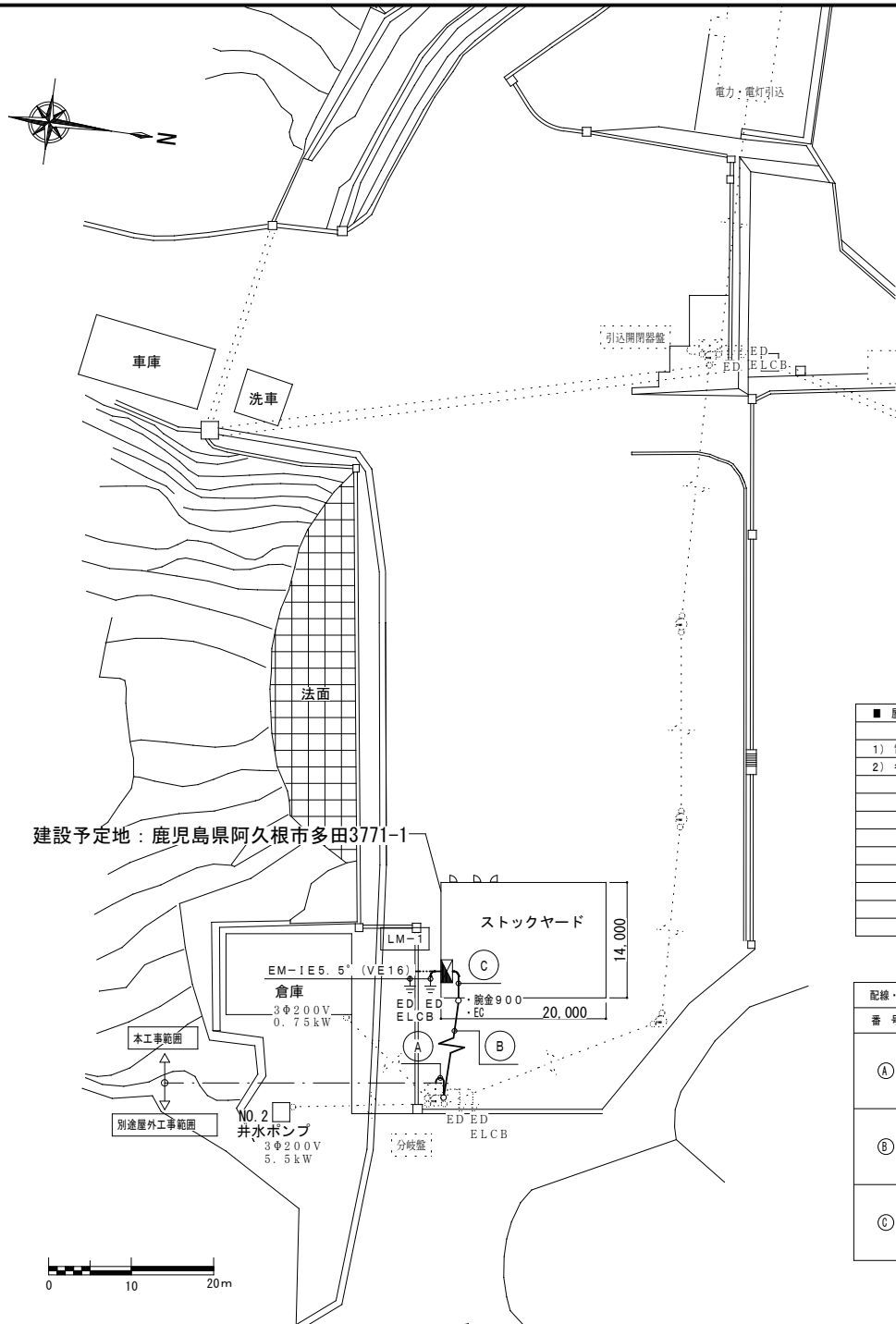


4通り鉄骨架構詳細図 1/50

(特記事項)
 ダイヤフラムプレートは、食っていないように取付く梁のフランジより厚くすること。
 梁フランジより 通しダイヤフラム：2サイズ以上アップのこと（取り付く梁の段差も考慮のこと）
 内ダイヤフラム：同厚以上のこと（取り付く梁の段差も考慮のこと）
 ダイヤフラムについては、SN490Cとする。
 継手位置については運搬等を考慮の上、現場にて打ち合わせの上最終決定とする。

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
 構造設計一級建築士 第9035号

株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日	工事名称	区分
	担当責任者	製図	縮尺	図面名称
		A3 : 1/50	ストックヤード建設工事	A (S) E M
			4通り鉄骨架構詳細図	13
				1級建築士 日高雅人 (登録番号 第262818号)
				JOB NO.



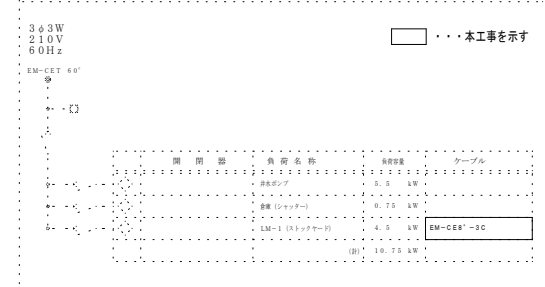
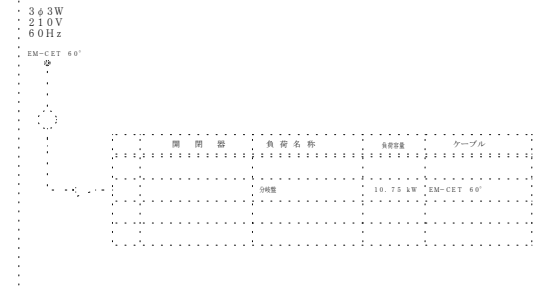
建設予定地：鹿児島県阿久根市多田3771-1



付近見取図

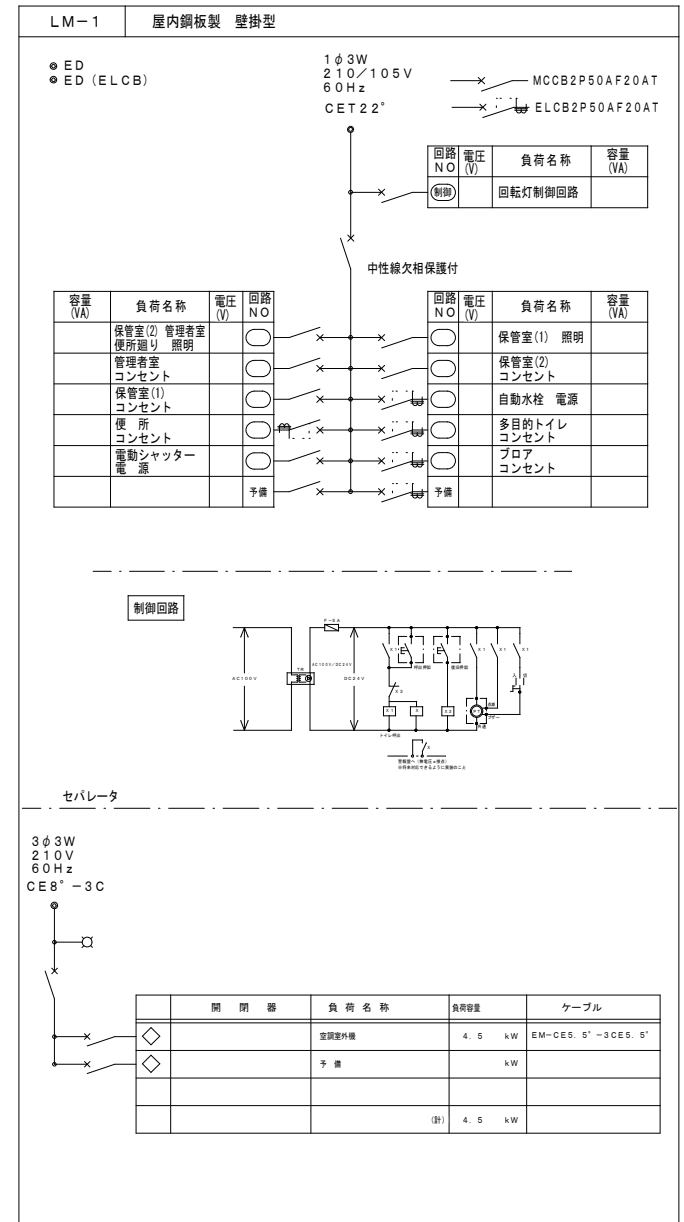
■ 屋外電気設備特記事項	
1)	電気設備については、電気事業法により施工のこと（建基法32条）
2)	各盤に接続されるケーブルには表示札を設置のこと。 （幹線：アクリル又は樹脂製「刻印付」、分岐線及び接地線：豆札）

配線・配管リスト			
番号	配線	配管	備考
①			
②		架空配線	
③		架空配線	
④		天井内配線	
⑤		天井内配線	

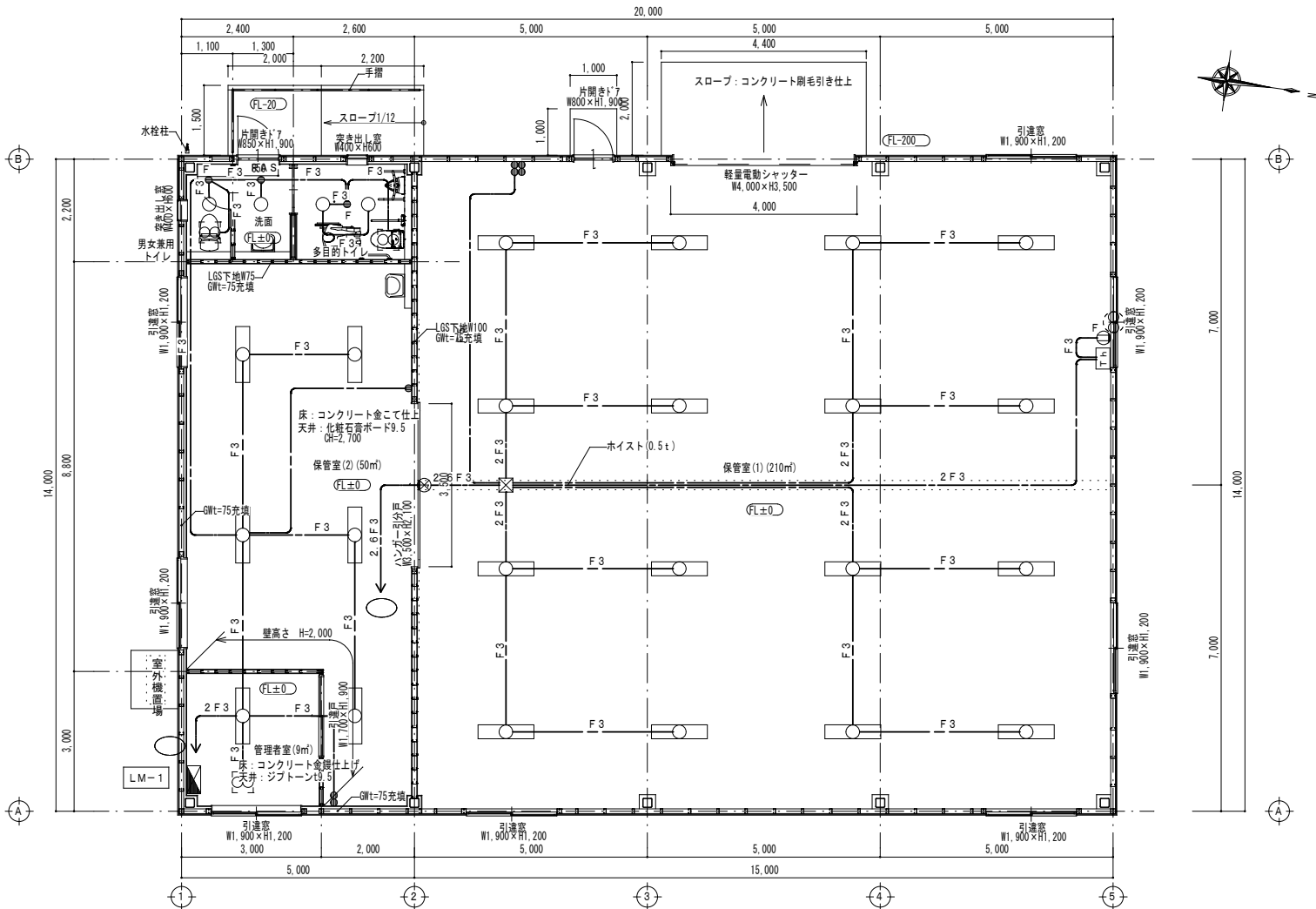


電気設備凡例表			
記号	名称	仕様	備考
(配管配線)			
— — —	天井いんべい配線		
— —	床いんべい配線		
— —	露出配線		
	立上げ・素通し・引下げ		
	プルボックス	200×200×150 樹脂製	
	ジョイントボックス	樹脂製アウトレットボックス 四角中深C付	
	ノズルプレート	角、SUS	
	接地極	種別は傍記参照	
(電灯コンセト)			
	LED照明	姿図参照	
	LED照明	姿図参照	
	埋込コンセント	大角型 2P15A×2	ステンレスプレート付
	埋込コンセント	大角型 2P15A×1 接地端子付	ステンレスプレート付
	埋込コンセント	大角型 2P15A×1 接地端子付	ステンレスプレート付
	小便器センサー用ボックス	樹脂製アウトレットボックス 四角中浅C付	
	埋込コンセント (壁扇用)	大角型 2P15A×1 接地端子付	ステンレスプレート付
	埋込防水コンセント	大角型 2P15A×2 接地極付	
	温度スイッチ		
	埋込タンブラスイッチ	大角型 1P15A	ステンレスプレート付
	埋込タンブラスイッチ	大角型 1P4A、パイロットランプ内蔵	ステンレスプレート付
	人感センサー	明るさセンサー付 天井型 親機	
	人感センサー	天井型 換気扇遅れOFF機能付	
	空調リモコンスイッチ	機械設備工事 ウラボックスは本工事	
	復旧押釦	埋込防沫型 常開形 AC/DC30V	
	回転灯	1P55 樹脂製 DC24V 100φ	
	トイレ呼出押ボタン	埋込防沫型 常開形 AC/DC30V握り紐付	電子ブザー付
	表示プレート	アクリル製 表示プレート参考図参照	
(機器)			
	中間ダクトファン		機械設備工事
	天井換気扇		機械設備工事
	空調リモコンスイッチ		機械設備工事
(盤)			
	分電盤	結線表参照	傍記参照

照明器具姿図 (型番は参考)		
※消費電力の表示については「JIS C 8105-3」による		
A	LSS9-4-65	直付富士型 ベースライト (43.1W)
B	LED6.900lm型	直付反射型型 ベースライト (43.1W)
C	LRS1-08	ダウンライト (7.0W)



便所		多目的トイレ		保管室(2)・管理者室		保管室(1)	
CH=2,500		CH=2,500		CH=2,700		直天3,500~4,700	
C	2	C	2	A	6	B	16



注記事項		
1. 平面図中、記入なき配線は下記による。		
---	保護管 インベイ露出	(天井ころがし)
---		(天井ころがし)
---		(天井ころがし)
---		(天井ころがし)
---		(天井ころがし)
---		(天井ころがし)
2. ケーブルの引下げ部分、インベイ部分は上記の電線管にて保護を行うこと。		
3. 保管庫は直天につき、鋼材部分ころがし配線とする。		

電灯設備平面図 S=1/100

管種使用区分表

名称	記号	管種	使用区分
給水管	---	内面硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB	屋内一般
		内外面硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD	土間埋設部
		耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 HIVP	屋外埋設部
排水管	---	硬質ポリ塩化ビニル管 VP	屋内一般・土間埋設部
		排水用リサイクル硬質塩化ビニル管 REP-VU	屋外埋設部
通気管	-----	硬質ポリ塩化ビニル管 VP	

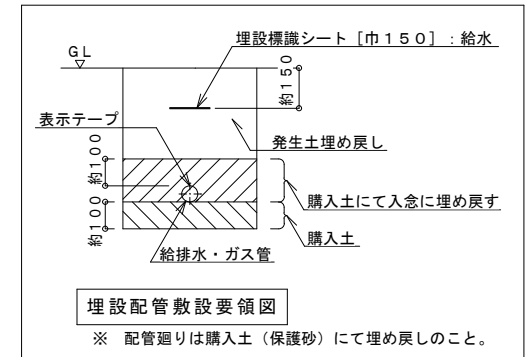
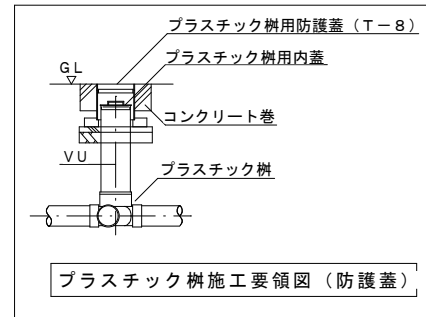
保温・防露仕様区分表

施工箇所	給水	排水	通気	防露・塗装・防食仕様
コンクリート埋込	C	-	-	A 防露 (標準仕様書に準ず)
土間埋設	B	B	B	B 裸管のまま
壁内	E	-	-	C 防食テープ巻 (標準仕様書に準ず)
屋外露出	-	-	D	D 調合ペイント2回塗リ
				E 防露 保温チューブ

樹リスト

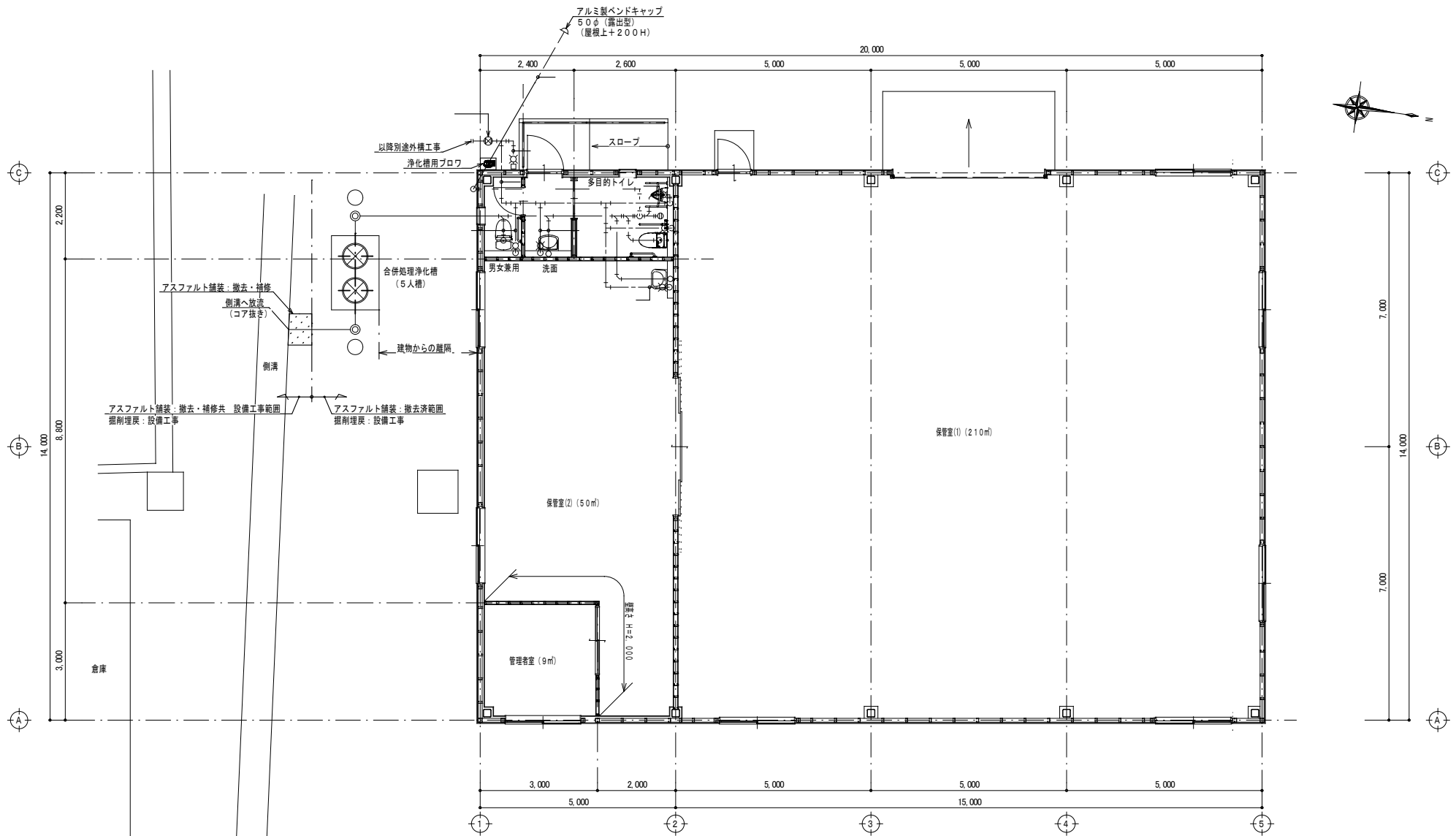
樹番号	名称	仕様・型番(参考)	樹位置GL-管底深さ(参考)	蓋種別	備考
○	プラスチック樹			防護蓋・内蓋	
○	プラスチック樹			防護蓋・内蓋	

※ 樹深さは、最終仕上がり地盤GL及び放流管接続高さを検討の上、決定すること。
 ※ プラスチック樹は全てコンクリート巻(現場施工形)を施すこと。(既製品不可)



器具明細表

名 称	J I S 記号又は 国土交通省記号	参 考 型 番		男 女 兼 用 ト イ レ	洗 面	多 目 的 ト イ レ	修 理 室	屋 外	合 計 数 量	備 考
		L I X I L	T O T O							
洋風大便器				1		1			2	防露形、蓋無し洗浄・暖房便座、自動便器洗浄、壁付リモコン、付属品一式、標記板 1φ100V
棚付二連紙巻器				1		1			2	
手すり (L型)				1		1			2	樹脂被覆タイプ
手すり (はね上げ式)						1			1	樹脂被覆タイプ、ロック付
センサー一体形小便器						1			1	付属品一式、標記板 1φ100V
手すり (小便器用)						1			1	樹脂被覆タイプ
洗面器					1				1	自動単水栓、止水栓、Pトラップ、付属品一式 1φ100V
洗面器							1		1	単水栓、止水栓、Pトラップ、付属品一式
化粧鏡 盗難防止					1				1	
キー式ホーム水栓	13-F7							1	1	
ビニル製水栓柱								1	1	



平面図 (給排水設備) S=1:100

 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日 2022. 12.	工事名称 ストックヤード建設工事	区分 A B E ①
	担当責任者 製図	縮尺 A3:1/100	図面名称 平面図 (給排水設備)	NO. M-04 (登録番号 第262818号)

仕 様 表	
分類	合併処理
処理計画人員	5 人
処理計画汚水量	1.0 m ³ /日
流入水質	BOD 200mg/L
	T-N 45mg/L
放流水質	BOD 20mg/L 除去率90%
	T-N 20mg/L
処理方式	横向往来雑物除去接触ろ床循環方式
有効容量 (m ³)	
横向往来雑物除去槽	1.074
接触ろ床槽	0.364
処理水槽	0.141
消毒槽	0.021
電気機器仕様	
ブロワ	100V-単相-28W 1台

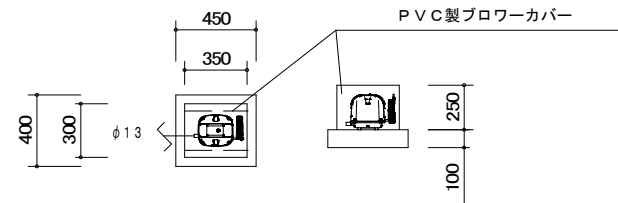
注記

スラブ荷重は、T-Oとする。

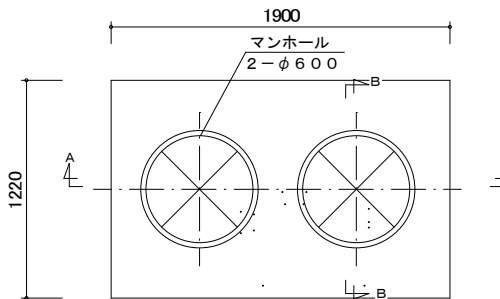
マンホールは、FRP製ボルトロック式とする。

浮上防止金具、アンカー筋はSUS製とする。

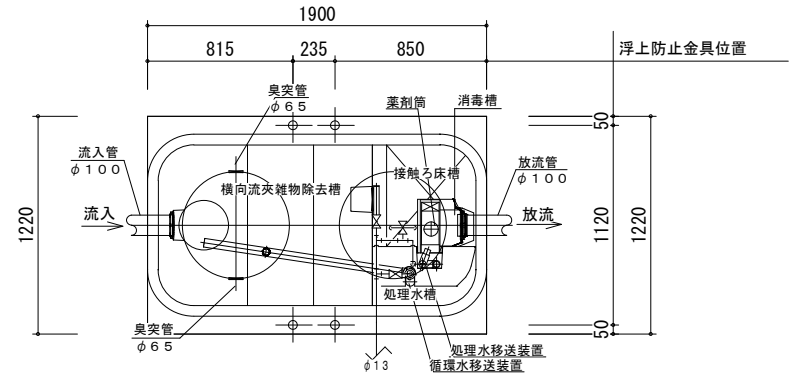
送風機カバーはPVC製とする。



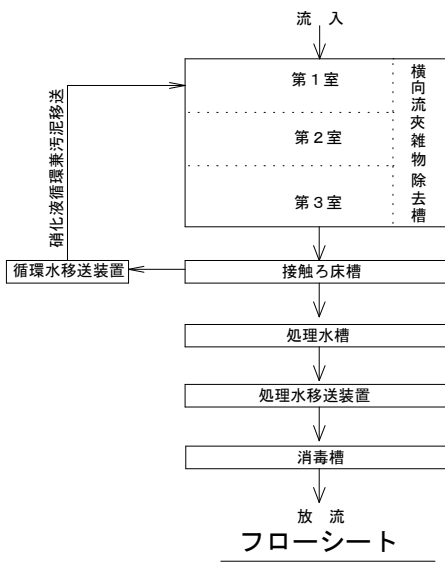
AP-50F
ブロワ 平断面図 S=1/30



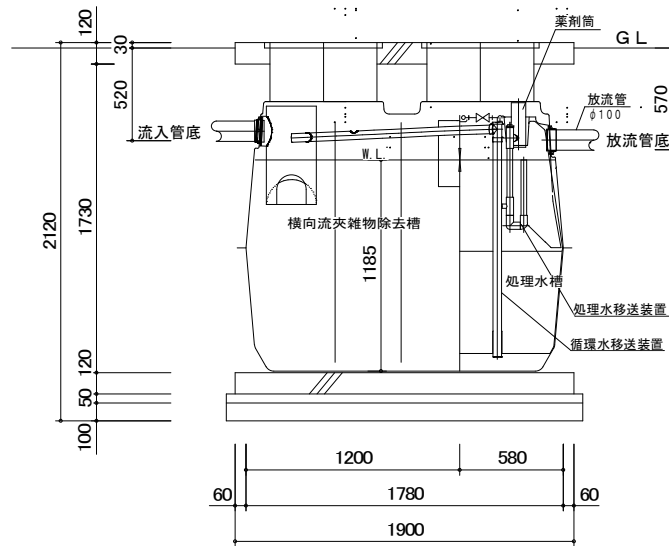
頂版開口図 S=1/30



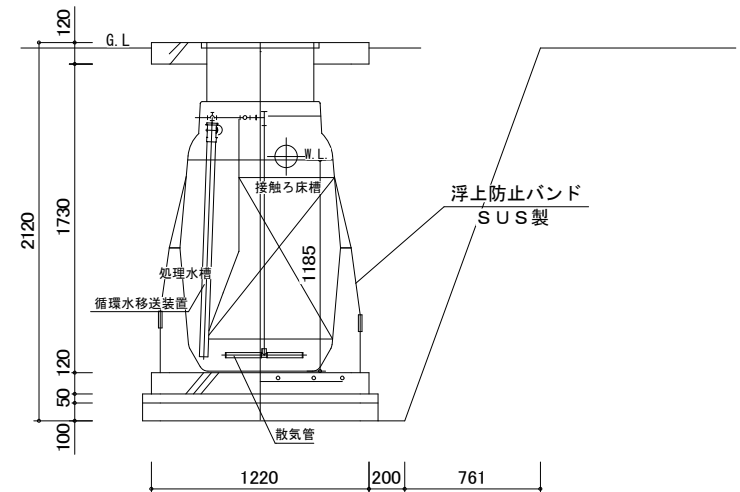
平面図 S=1/30



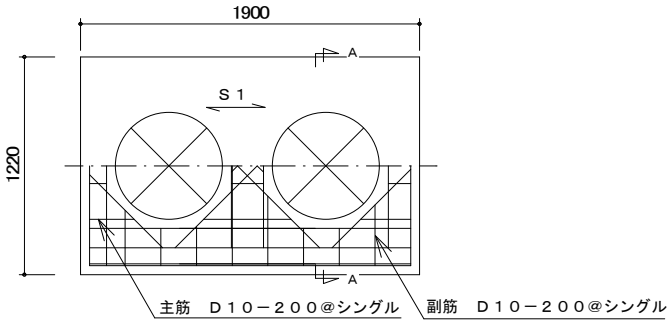
フローシート



A-A断面図 S=1/30

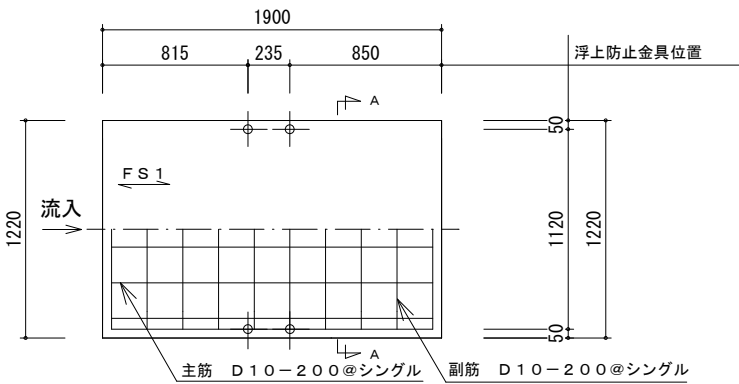


B-B断面図 S=1/30



頂版スラブ配筋図 S = 1 / 3 0

主筋方向



基礎スラブ配筋図 S = 1 / 3 0

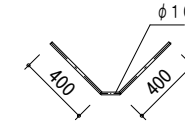
共通事項

凡例	· ----- D10 x ----- D13
鉄筋	SD-295A 使用とする。
コンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$ とする。
スラブ荷重	T-0
その他	詳細は現場係員の指示による。

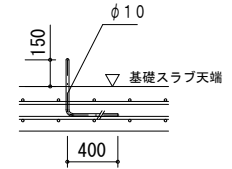
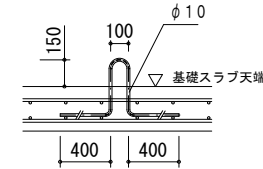
スラブリスト

スラブ	スラブ厚	位置	主筋	副筋	備考
S1	120	全断面	D10-200@	D10-200@	シングル
FS1	120	全断面	D10-200@	D10-200@	シングル

スラブ筋等の重ねつぎで長さは小径の40d以上とする。

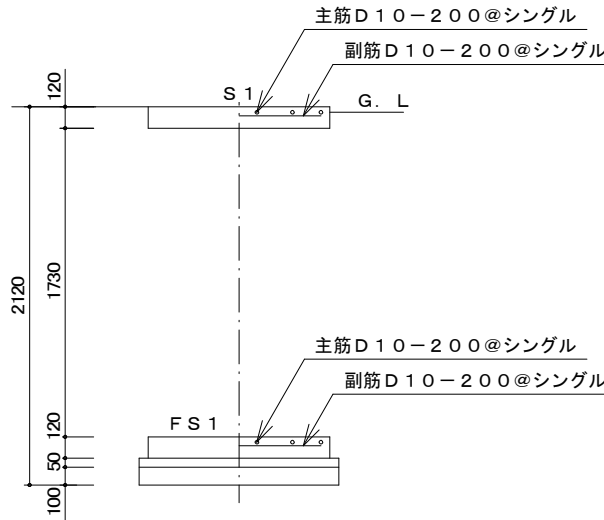


平面図

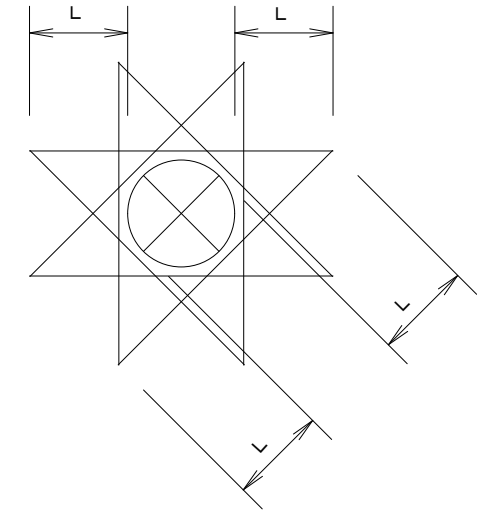


断面図

浮上防止バンドアンカー図 SUS製
下端筋に定着のこと



A-A断面配筋図 S = 1 / 3 0



開口部補強筋 1-D10
定着長さ L=40d

開口部補強筋

特記事項

1. 本工事請負業者の選定した機種により、施工範囲に金額の増が生じた場合は、本工事請負者の負担により施工すること。
2. 屋外露出の支持金物、ボルト・ナット類は全てステンレス製（SUS304）とする。
3. 室外機には各々適切な場所に室名、記号を記入した表示を取り付けること。又、室内機は必要に応じ表示すること。
4. 空調機室内外ユニット間の連絡電線・電源線・アース線は冷媒管に同時巻とする。
5. 上記電線は、機器の機能を満足するケーブル・本数を使用すること。
6. 室内機及び配管等は振れ止めを取ること。
7. 室外機は全て転倒防止処置をすること。

工事区分表

	設備工事	電気	建築
天井埋込型換気扇等取付	○		
同上電気配線・配管、スイッチ取付		○	
天井開口・開口補強			○
空調機取付	○		
同上操作線・制御線、スイッチ取付	○		
同上用配管、スイッチボックス取付		○	
天井開口・開口補強			○
室外機基礎	○		

※ スイッチ類の取付位置は監督員と協議の上決定すること。

機器仕様一覧表（空調）

記号	機器名称	仕様	電気仕様		数量	備考
			相	V		
⊙	空冷ヒートポンプ式 パッケージエアコン (同時ツイン)	冷房能力 14.0kW (6.3~16.0) 暖房能力 16.0kW (7.3~20.0)			○	ドレンアップ
		室内機 天カセ4方向 圧縮機 3.0kW以下 JIS条件時 ワイヤードリモコン				室外機転倒防止処置 室外機基礎

- ※ 機器の開口補強・天井点検口は建築工事とする。尚、位置については打ち合わせの上決定すること。
- ※ 空調機器はクリーン購入法及び省エネ法（トップランナー基準）に適合した機器を選定すること。
- ※ 空調機の電気容量は記載値以下の機種を選定すること。
- ※ パッケージエアコンの能力及び消費電力は「JIS B 8616」で規定された定格条件による。

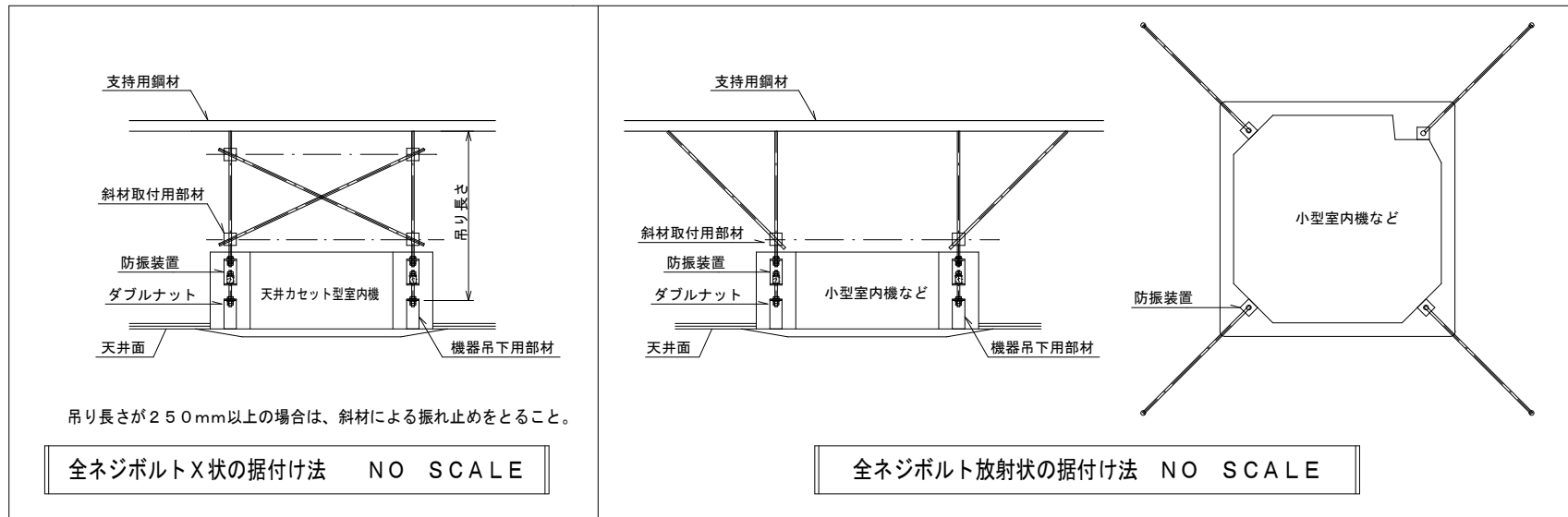
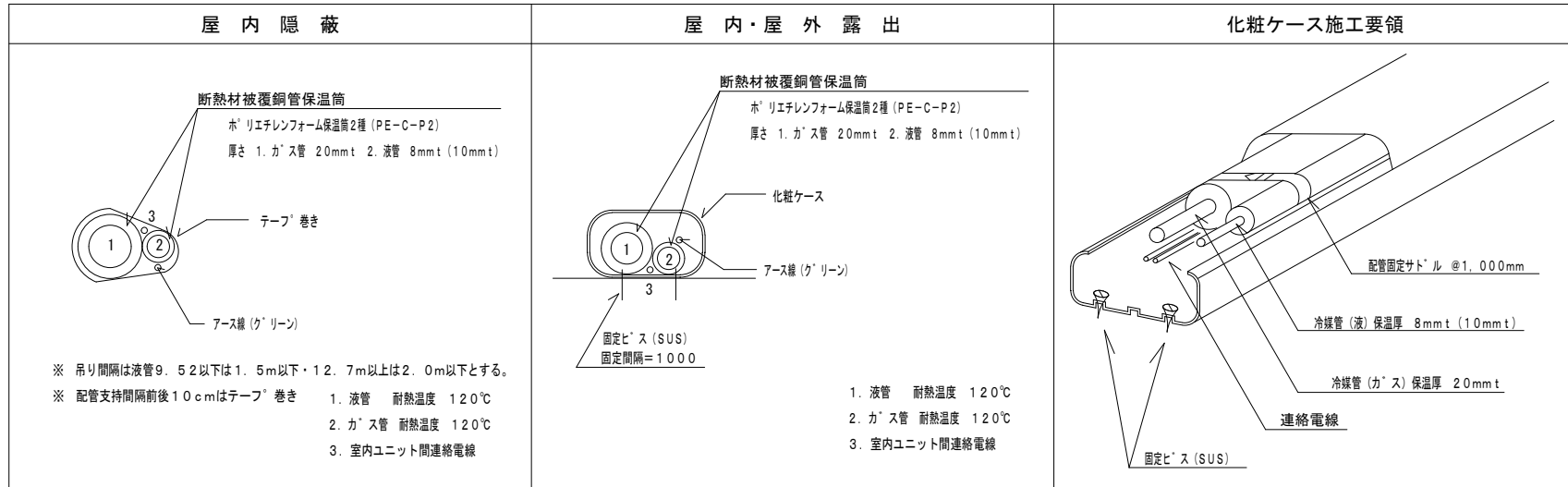
管種使用区分表

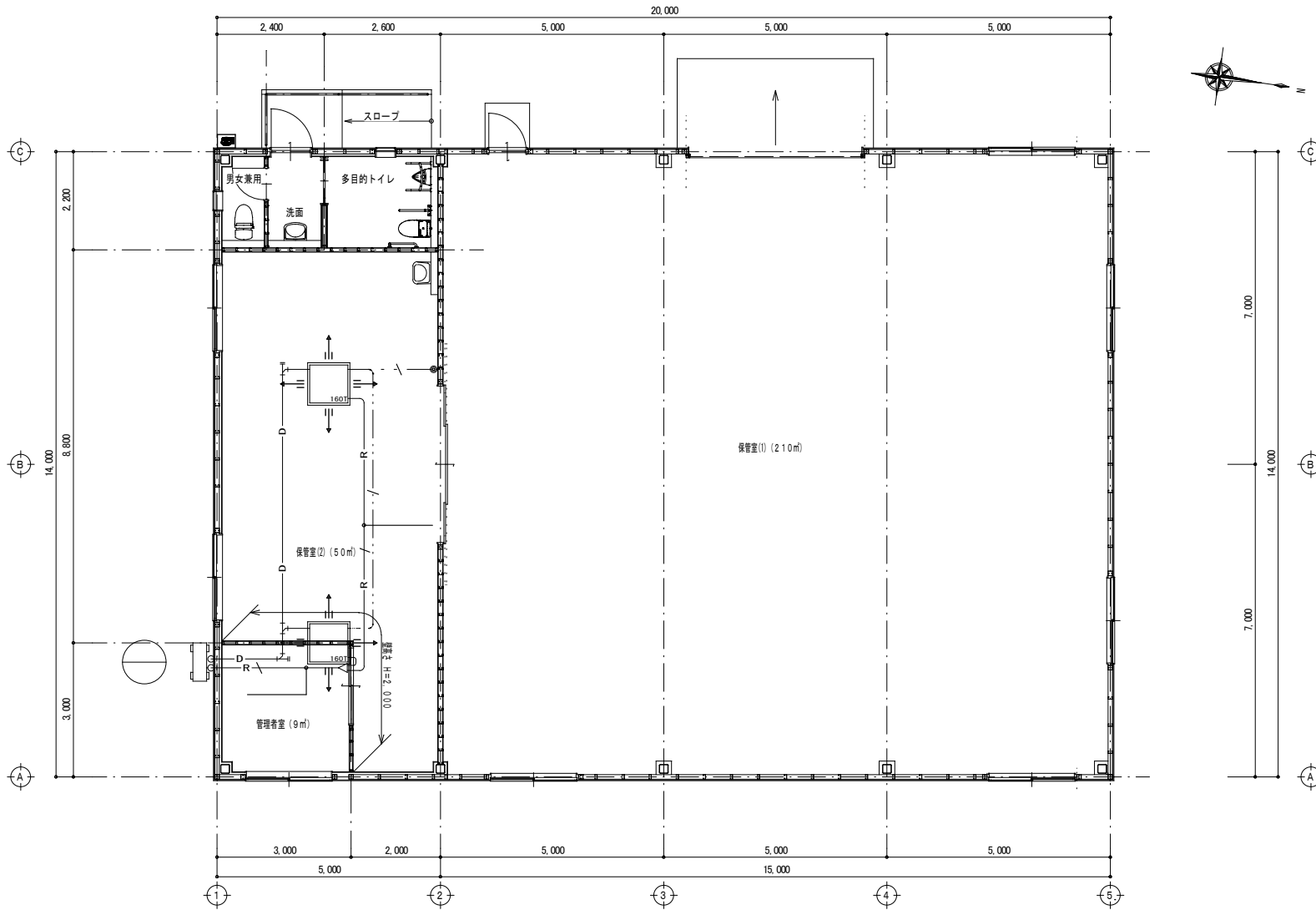
名称	記号	管種
冷媒管	— R —	保温付被覆銅管（20mm）
ドレン管	— D —	硬質ポリ塩化ビニル管
換気管	— — — — —	スパイラルダクト：亜鉛鉄板0.5m/m

防露・保温仕様

名称	屋内隠ぺい	屋外露出
冷媒管	テープ巻（1m毎）	保温化粧ケース
ドレン管	保温チューブ巻	塗装

冷媒配管施工要領図





平面図 (空調設備) S=1:100

凡例表

記号	配線	仕様	備考
●RS			空調リモコンスイッチ
— / A —	EM-CEES1.25°-2C	天井内コロガシ	空調機 (スイッチボックス・壁内配管:電気工事)
— / B —	EM-EEF1.6°-3C	冷媒配管巻込み	空調機

特記事項

1. 本工事請負業者の選定した機種により、施工範囲に金額の増が生じた場合は、本工事請負者の負担により施工すること。
2. 換気扇及び配管等の吊り金具長さ600L以上は振れ止めを取ること。
3. 換気扇類のダクトは、パイプフード側に下り勾配とすること。
4. スパイラルダクトの継手接続要領については、150φ以下は片側2箇所以上、150φを超える口径については片側3箇所以上ビス止めとし、その上にダクト用テープ二重巻きとする。
5. 支持金物、ボルト・ナット類は全てステンレス製（SUS304）とする。
6. 機器の開口及び開口補強・天井点検口は建築工事とする。
尚、位置については打ち合わせの上決定すること。
7. 換気扇類は必要に応じ各々適切な場所に記号、設置年月を記入した樹脂プレート（刻印）を取り付けること。

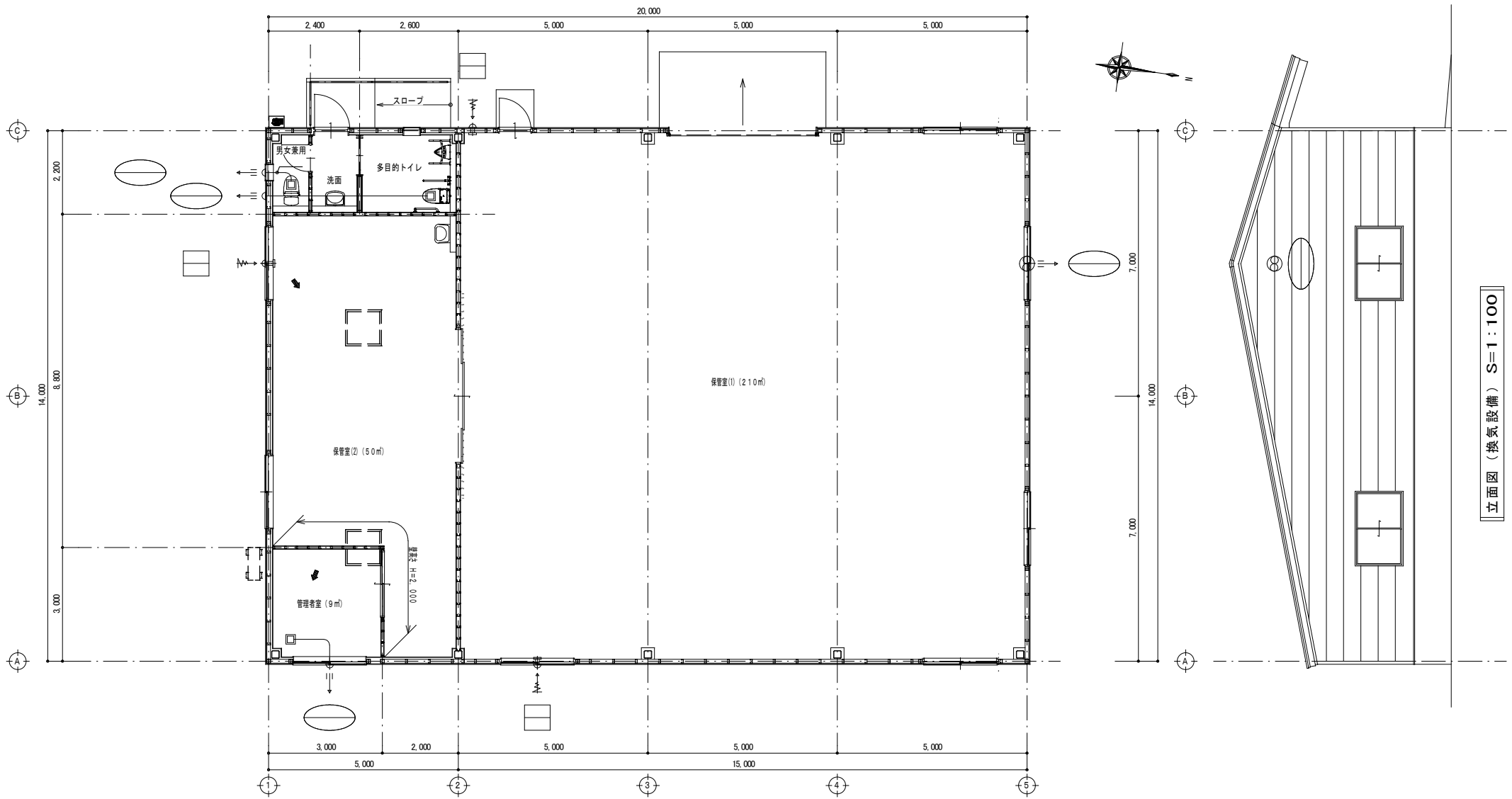
機器仕様一覧表（換気）

記号	機器名称	仕様	電気仕様			換気方式	数量	備考
			相	V	W			
	天井埋込型換気扇	樹脂製低騒音タイプ 風量：160m ³ /h 機外静圧：60Pa 機器騒音：35dB以下	1	100	30	第三種	2	深型パイプフード100φ（SUS製防虫網付）
	天井埋込型換気扇	樹脂製低騒音タイプ 風量：80m ³ /h 機外静圧：50Pa 機器騒音：30dB以下	1	100	20	第三種	1	深型パイプフード100φ（SUS製防虫網付）
	有圧扇	標準タイプ 40cm 電動シャッター付 風量：1500m ³ /h 機器騒音：55dB以下	1	100	200	第三種	1	ウェザーカバー40cm（SUS製防虫網付） 取付枠、他付属品一式 （温度センサー：電気設備工事）
	給気口 （壁面取付）	角型フィルター付 150φ用 風量調節機構付					3	深型パイプフード150φ（SUS製防虫網付）


- ※ 換気平面図に「24H」の図示のある換気機器のスイッチは、常時換気すべきことを指示する表示を取付けること。
- ※ 換気ダクトは外壁に向かって下り勾配とする。
- ※ 換気扇の電動機出力 [kW] は、JIS C 9603（換気扇）で規定された消費電力に0.75を乗じた値とする。

法定換気計算書

24時間換気										建基法令		換気回数より		換気量判定						
記号	室名	面積	天井高さ	容積	常時換気必要回数	常時換気量	換気種別	給気口		排気量 D<E				占有面積 /人	換気回数 回/h	換気風量	Va<G, I<G			
								設置	記号	選定機器 (E)		E÷B					選定機器 (G)			
										機器風量	台数	実換気量	記号				換気回数	判定	機器風量	台数
	保管室(2)						給気口													
	管理室						排気機	3種												
	男女兼用トイレ																			
	多目的トイレ																			
	保管室(1)																			



平面図（換気設備）S=1：100

※ 図中  は、24時間換気経路を示す。

 株式会社 下舞設計 鹿児島市金生町4番4号 TEL 099-222-4114	承認	作成年月日 2022.12.	工事名称 ストックヤード建設工事	区分 A B E ①
	担当責任者 製図	縮尺 A3:1/100	図面名称 平面図（換気設備）	一級建築士 日高雅人 (登録番号 第262818号) M-11 JOB NO.